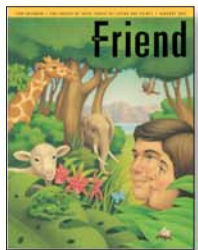


リアホナ



表紙
絵/ウォルター・レーン



「フレンド」表紙
絵/スティーブ・クロップ

「明かり」
「フレンド」10ページを
見ましょう

一般

- 2 大管長会メッセージ——確かな道を歩みなさい 大管長 ゴードン・B・ヒンクレー
- 8 福音クラシック——モルモン書と教義と聖約 大管長 エズラ・タフト・ベンソン
- 14 教義と聖約早見表 表1——第1章から第64章まで
- 18 デビッド・O・マッケイ 信仰の大使 ウェード・マードック
- 25 家庭訪問メッセージ——イエス・キリストの福音が回復されたことを喜びとする
- 26 失った愛……取り戻すまでの苦闘 匿名
- 30 家族を強める——男性と女性は神の形に創造された
- 38 末日聖徒の声
彼らの将来が心配でした アダルベルト・S・サンチェス
小さなこと シャノン・バンダースプール・ワトソン
スキナー兄弟とのホームティーチング ケビン・プロバスコ
- 42 執事定員会——管理監督会へのインタビュー
- 48 読者からの便り

青少年

- 13 ポスター——信じなさい
- 32 ベネズエラの勇敢な者たち マービン・K・ガードナー
- 44 執事となる ローリー・リブジー
- 45 2005年ミュニシャルのテーマ「大いなる驚くべき業」
- 46 わたしが? 祝福を授けるんですか? ブラッド・ラーセン

フレンド

- F2 預言者の声——バプテスマを通して新しく生まれる
第二副管長 ジェームズ・E・ファウスト
- F4 いのり
- F6 デビッド・O・マッケイだいかんちょうのしょうがいから——お父さんとお母さんのしんこう
- F8 分かち合いの時間——こうふくの計画 マーガレット・ライフアース
- F10 明かり ボー・ペダーセン
- F13 わたしたちのうつくしいちきゅう——それは計画のいちぶでした
- F14 友だちになろう——グアテマラのコマラバに住むハイロ・エリ・ショコップ

「失った愛……
取り戻すまでの苦闘」
26ページ参照

付録

- 分かち合いの時間ポスター
——わたしは、わたしのためによういされたかみの計画にしがいます





「天の窓」 デビッド・リンズレー画

1835年秋の一場面を想像して描かれている。末日における最初の神殿であるカートランド神殿の窓を、ジョセフ・ヤングとプリガム・ヤング(上)が取り付けている。その二人に預言者ジョセフ・スミス(中央)が手を貸している。オリバー・カウドリ(左)とシドニー・リグドン(右)も神殿の建設に携わった。

末日聖徒イエス・キリスト教会公式機関誌(日本語版)
大管長会:ゴードン・B・ヒンクレー, トーマス・S・モンソン,
ジェームズ・E・ファウスト

十二使徒定員会:ボイド・K・バッカー, L・トム・ベリー, ラッセル・M・ネルソン, ダリン・H・オクス, M・ラッセル・バラード, ジョセフ・B・ワースリン, リチャード・G・スコット, ロバート・D・ヘイルズ, ジェフリー・R・ホランド, ヘンリー・B・アイリング, ディーター・F・ウークトドルフ, デビッド・A・ベドナー

編集長:ジェイ・E・ジェンセン

顧問:モンティ・J・ブラフ, W・ロルフ・カー

実務運営ディレクター:デビッド・フリッシュニク

企画編集ディレクター:ピクター・D・ケーブ

グラフィックスディレクター:アラン・R・ロイボーク

機関誌編集ディレクター:リチャード・M・ロムニー

編集主幹:マービン・K・ガードナー

編集スタッフ:コレット・ネベカー・オース, スーザン・バレット, シャナ・ハトラ, ライアン・カー, リンダ・ステール・クーパー, ラリオン・ポーター・ガート, ジェニファー・L・グリーンウッド, R・バル・ジョンソン, キャリー・カステン, メルビン・リービット, サリー・J・オテカー, アダム・C・オソン, ジュディ・M・パーラー, ビビアン・ポールセン, ドン・L・サール, レベッカ・M・テラー, ロジャー・テリ, ジャネット・トーマス, ポール・バンデンバーク, ジュリー・ワーデル, キンバリー・ウェズ, モニカ・ウィークス

実務運営アートディレクター:M・M・カワサキ

アートディレクター:スコット・バン・カンペン

制作主幹:ジェーン・アン・ヒーターズ

デザイン・制作スタッフ:ケリー・アレンプラット, ハワード・G・ブラウン, トーマス・S・チャイルド, レジナルド・J・クリステンセン, キャスリーン・ハワード, デニス・カービー, タッド・R・ビーターソン, ランドール・J・ピクストン, カリ・A・トッド, クラウディア・E・ワーナー

マーケティング部長:ラリー・ヒラー

印刷ディレクター:クレグ・K・セジウィック

配送ディレクター:クリス・T・クリステンセン

●定期購読は、「リアホナ」注文用紙でお申し込みになるか、郵便振替(口座名/末日聖徒イエス・キリスト教会 振替口座番号/00100-6-41512)にて教会管理本部配送センターへご送金いただければ、直接郵送いたします。●「リアホナ」のお申し込み・配送についてのお問い合わせ……〒133-0057東京都江戸川区西小岩5-8-6/末日聖徒イエス・キリスト教会 管理本部配送センター 電話 03-5668-3391

発行所 末日聖徒イエス・キリスト教会

〒106-0047東京都港区南麻布5-10-30

電話 03-3440-2351

定価 年間予約/海外予約 2,400円(送料共)

半年予約 1,200円(送料共)

普通号/大会号 200円

「リアホナ」への投稿およびご質問は、下記の連絡先にお送りください。

Room 2420, 50 East North Temple Street,

Salt Lake City, UT 84150-3220, USA

電子メール:cur-liahona-imag@ldschurch.org

「リアホナ」(モルモン書)に出ている言葉「羅針盤」または「指示器」の意は、以下の言語で出版されています。

アイスランド語, アルバニア語, アルメニア語, イタリア語, インドネシア語, クライン語, 英語, エストニア語, オランダ語, 韓国語, カンボジア語, キリバス語, クロアチア語, サモア語, シンハラ語, スウェーデン語, スペイン語, スロベニア語, スブア語, タイ語, タガログ語, タヒチ語, タミル語, 中国語, チェコ語, テルグ語, デンマーク語, ドイツ語, トンガ語, 日本語, ルルウェー語, ハンガリー語, フィジー語, フィンランド語, フランス語, フルガリア語, ベトナム語, ポーランド語, ポルトガル語, マーシャル語, マダガスカル語, モンゴル語, ラトビア語, リトアニア語, ルーマニア語, ロシア語。(発行頻度は言語により異なります。)

©2005 Intellectual Reserve, Inc. 著作権所有。印刷:日本「リアホナ」に掲載されている文章や視覚資料は、教会や家庭において臨時に、また非営利目的に使用する場合は複製することができます。視覚資料に関しては、作品のクレジットに制限が記されている場合に複製できないことがあります。著作権に関するご質問は、Intellectual Property Office, 50 East North Temple Street, Salt Lake City, UT 84150, USAに郵送するか、電子メール——cor-intellectualproperty@ldschurch.org にご連絡ください。

英語版承認—1996年8月 翻訳承認—1996年8月
原題—International Magazines January 2005, Japanese. 25981 300

「リアホナ」は、教会のホームページwww.lds.org (英語)に様々な言語で掲載されています。英語の場合は「Gospel Library」(福音図書館)をクリックしてください。その他の言語は世界地図をクリックしてください。

For Readers in the United States and Canada:
January 2005 no. 1 LIAHONA (USPS 311-480) Japanese (ISSN 1521-4729) is published monthly by The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints, 50 East North Temple, Salt Lake City, UT 84150. USA subscription price is \$10.00 per year; Canada, \$16.00 plus applicable taxes. Periodicals Postage Paid at Salt Lake City, Utah, and at additional mailing offices. Sixty days notice required for change of address. Include address label from a recent issue; old and new address must be included. Send USA and Canadian subscriptions and queries to Salt Lake Distribution Center at address below. Subscription help line: 1-800-537-5971. Credit card orders (Visa, MasterCard, American Express) may be taken by phone. (Canada Post Information: Publication Agreement #40017431)

POSTMASTER: Send address changes to Salt Lake Distribution Center, Church Magazines, PO Box 26368, Salt Lake City, UT 84126-0368.

家庭の夕べのための アイデア



「モルモン書と教義と聖約」8ページ——エズラ・タフト・ベンソン大管長がモルモン書について語ったことと、教義と聖約について語ったことをそれぞれリストにし、比較してください。モルモン書と教義と聖約では、どのような点が類似または相違していますか。記事の中で語られている約束が、自分の人生においてどのように成就してきたかを話してください。

「モルモン書と教義と聖約」8ページ——エズラ・タフト・ベンソン大管長がモルモン書について語ったことと、教義と聖約について語ったことをそれぞれリストにし、比較してください。モルモン書と教義と聖約では、どのような点が類似または相違していますか。記事の中で語られている約束が、自分の人生においてどのように成就してきたかを話してください。

「男性と女性は神の形に創造された」30ページ——家族一人一人に、この記事の各項目が自分たちにとってどのような意味があるのか順番に説明するように言ってください。この記事に採り上げられている真理と、「神の子です」(『賛美歌』189番)または「高きに栄えて」(『賛美歌』180番)の歌詞との類似点を探してください。

「男性と女性は神の形に創造された」30ページ——家族一人一人に、この記事の各項目が自分たちにとってどのような意味があるのか順番に説明するように言ってください。この記事に採り上げられている真理と、「神の子です」(『賛美歌』189番)または「高きに栄えて」(『賛美歌』180番)の歌詞との類似点を探してください。

「ベネズエラの勇敢な者たち」32ページ——ベネズエラの若者が直面している問題は何ですか。彼らが直面している状況を演じてみましょう。ベネズエラの若者が抱える問題は、あなたが経験している困難とどのように似ていますか、また、どのように違いますか。キリストの証人となるにはどうしたらよいか話し合ってください。

「ベネズエラの勇敢な者たち」32ページ——ベネズエラの若者が直面している問題は何ですか。彼らが直面している状況を演じてみましょう。ベネズエラの若者が抱える問題は、あなたが経験している困難とどのように似ていますか、また、どのように違いますか。キリストの証人となるにはどうしたらよいか話し合ってください。

「2005年ミュージシャルのテーマ——「偉大な驚くべき業」」45ページ——2005年度のミュージシャルテーマに関する中央若い男性、若い女性会長会の話を読んでください。このテーマに対して、家族として今年1年どのような支援ができるでしょうか。10代の子供に尋ねてください。

「2005年ミュージシャルのテーマ——「偉大な驚くべき業」」45ページ——2005年度のミュージシャルテーマに関する中央若い男性、若い女性会長会の話を読んでください。このテーマに対して、家族として今年1年どのような支援ができるでしょうか。10代の子供に尋ねてください。

「バプテスマを通して新しく生まれる」F2ページ——家族にアチアチの物語を演じるよう割り当ててください。アチアチがどのように、また、なぜ変わったのかを話し合ってください。最後の段落を声に出して読み、バプテスマの祝福について証してください。

「バプテスマを通して新しく生まれる」F2ページ——家族にアチアチの物語を演じるよう割り当ててください。アチアチがどのように、また、なぜ変わったのかを話し合ってください。最後の段落を声に出して読み、バプテスマの祝福について証してください。

「お父さんとお母さんの信仰」F6ページ——ナレーター、お父さん、お母さん、デビッドのせりふを、別々の紙に書いてください。家族にこの物語を演じるよう割り当ててください。F6, F7ページの絵を見せてください。デビッド・O・マッケイ大管長と彼の家族は、どのように神への信仰を表しましたか。主への信仰をさらに表すにはどのようなことができるでしょうか。家族で話し合ってください。

「お父さんとお母さんの信仰」F6ページ——ナレーター、お父さん、お母さん、デビッドのせりふを、別々の紙に書いてください。家族にこの物語を演じるよう割り当ててください。F6, F7ページの絵を見せてください。デビッド・O・マッケイ大管長と彼の家族は、どのように神への信仰を表しましたか。主への信仰をさらに表すにはどのようなことができるでしょうか。家族で話し合ってください。

今月号に採り上げられているテーマ

Fは「フレンド」の略		
証	45	救いの計画
イエス・キリスト	26, F8	30, F8, F13
祈り	13, 46, F4, F10	スミス, ジョセフ
教えること	8	2, 13, 14, 25, 45
改宗・改心	38	青少年 32, 45
開拓者	2	聖文研究 8
回復	25	世界に広がる教会
家族	30, 38, F6	32, F14
活発化	32, 38	選択の自由 30
家庭訪問	25, 38	創造 30
奇跡	F2, F10	背教 25
教会歴史	2, 14	バプテスマ F2
教義と聖約	8, 14	標準 2, 32
結婚	26	奉仕 38, 42
最初の示現	2, 13	ホームティーチング
慈愛	26	7, 38, 46
執事	42, 44	マッケイ, デビッド・O
指導性	18, 42	18, F6
初等協会	F8	ミュージシャル 45
神権	42, 44, 46, F10	模範 2, 32, F6
信仰	F6	モルモン書 8



確かな道を 歩みなさい

大管長

ゴードン・B・ヒンクレー

わたしたちが生きているこの21世紀初頭について、昔の人は数々の預言を残しています。今は預言が成就する時代です。わたしはこの時代に皆さんとともに胸躍る驚くべき業の一端を担えることに感謝しています。この業は世界各地の数多くの人を善に導いています。

この業の発展は、人の力による勝利ではありません。神の力の現れです。教会の発展について教会員が高ぶったり、傲慢ごうまんになったりすることのないように願っています。常に謙遜けんそんであり、感謝で心を満たすように祈っています。

最初の示現が結んだ実

この業はすばらしい現れから始まりました。1820年のある春の朝、御父と御子が少年ジョセフ・スミスに御姿みすがたを現されたのです。現代の教会に見られる良いものは、すべてこの驚嘆すべき訪れの結んだ実あかしです。この示現についての証は、世界中の数百万という人の心を動かしてきました。御霊みたまを通して受けたわたし自身の証を付け加えます。この驚くべき出来事について預言者ジョセフ・スミスが記したことは真実です。すなわち、ジョセフが記しているように、永遠の父なる神とよみ

がえられた主イエス・キリストが実際に、親しくジョセフに語りかけられたのです。わたしは声を上げて証します。ジョセフは預言者です。またジョセフを仲立ちとしてもたらされた業はまさに神の業です。

預言者ジョセフ・スミスと行動を共にした一人が、ジョセフの業績をまとめ、それを発展させていくわたしたちの義務を宣言しています。わたしはその言葉の偉大さを認識するようになりました。ジョセフの死後まだ1年とたたない1845年に、十二使徒定員会のパーリー・P・プラット長老が詩のように美しい言葉を書きました。

「彼は神の王国を組織した。——わたしたちはその境を広げよう。

彼は完全な福音を世に回復した。——わたしたちはそれを広めよう。……

彼は栄光の日の、夜明けを開いた。——わたしたちはその輝きを増し、極みに至らせよう。

彼は『小さな者』であったが、幾千の人を導いた。わたしたちも小さな者だが、強い民となる。

一言で言えば、彼はあの石を切り出したのだ。……わたしたちは、その石を大きな山となし、全地に満たすのだ。』¹



開拓者が
信仰のために
これほどの
代価を払ったのだ
とすれば、
ささいな批判に耐え
わずかな犠牲を
求められたから
といって、
わたしたちは
驚いていられる
でしょうか。



わたしたちは、ネブカデネザル王の見たこの夢が成就していくさまを目の当たりにしています。神の王国を築くという神聖な信頼に忠実に、誠を尽くしてこたえようではありませんか。神の業を推し進めていく中にも、悲しみや挫折を避けることはできません。強い妨げ、また狡猾な企てに苦しむこともあります。

最良の防御

業が進むにつれ、敵対する力も強まると考えるのは間違いではありません。悪の力から身を守る最良の方法は、心を穏やかに保ち、これまで神の預言者として支持してきた人々の教えに忠実に従うことです。

預言者ジョセフ・スミスは現代の状況にもよく当てはまる次の教えを述べています。「まったく柔和に、まじめな心で出て行きなさい。そして、イエス・キリストについて、また、主が十字架におかかりになったことについて教えなさい。信仰や宗教について人と争わず、確かな道を歩みなさい。わたしはこれを戒めとして与えます。この戒めに従わない人は自らに迫害を招き、従う人は常に聖霊に満たされるでしょう。わたしはこれを預言として公式に宣言します。」²

この声明に含まれている幾つかの言葉を、末日聖徒イエス・キリスト教会の会員であるわたしたちに与えられたテーマとして採り上げましょう。

「人と争わず、確かな道を歩みなさい」という預言者の勧告の中にある知恵を、主の靈感を受けて理解できるよう祈っています。

確かな道を歩む

今は価値観や標準が揺れ動き、変化している時代です。人を過ちへ導く様々な企てが次々に生まれては消えていきます。その傾向は政府にも、社会風紀にも、個人の道徳観にも、家庭や宗教界の中にも見られます。この教会の中にさえ、人間の詭弁によって道を誤る人々がいるのです。

世界中の人が闇の中を手探りで歩いているように見えます。これまで社会の基盤となってきた良い伝統を捨て去りながらも、自分たちを導いてくれる新たな伝統を見いだせずにいるのです。

1970年に日本で開かれた万国博覧会で教会のパビリオンを奉献した際、日本の政府高官が道徳の持つ力を擁護して

預言者ジョセフ・スミスについて、パーリー・P・プラット長老は次のように記しました。「彼は神の王国を組織した。——わたしたちはその境を広げよう。彼は完全な福音を世に回復した。——わたしたちはそれを広めよう。」

語ったことを覚えています。彼は、教会が博覧会に参加したことに賛辞を述べましたが、国民生活の中で宗教の影響力が弱まり、それに伴って道徳と理想が低下していることを嘆いていました。

どの地域においても状況は同じようです。ピューリッツァー賞を受賞した歴史家、バーバラ・W・タックマンの示唆に富んだ記事を、何年も前に読んだことがあります。次のように書いていました。「こと指導者に関して言えば、むしろあまりにも多くの人が、ハーメルンの笛吹きのように〔人を巧みに誘導し〕、人々の先頭に立つことばかり考えている。支持者をかき集め、多くの人に受け入れられようと奔走しているのだ。が、だれの目にも明らかのように、彼らがまったくしていないことがある。毅然とした態度でこう断言しないのである。『わたしはこう信じている。これはするが、あれはしない。これはわたしの行動規範に合致するが、それは合致しない。これは非常にすばらしいが、それはくずも同然だ。』総じて信念を明言したとらないという意味において、道徳的な強さが欠けている。」

これは合致しない。これは非常にすばらしいが、それはくずも同然だ。』総じて信念を明言したとらないという意味において、道徳的な強さが欠けている。」

彼女はこう続けています。「わたしにとって、この哀れな……社会が抱える病の中でも最も大きな病、非常に多くの不安や難問の原因となっている病は、道徳の欠落であるように思える。道徳を明確に述べることや道徳に従うことに対して、必要であれば命じる立場にいる人ですら、あまりにも確信がなさすぎる。道徳、行動規範、倫理など、いかなる価値観についても、自らの態度をはっきりさせることを嫌がるという病が蔓延し、我々をむしばんでいるように思える。」³

世の標準がどのように揺れ動こうとも、教会員が世の標準にのまれてよいという言い訳にはなりません。確実に、立証済みの、有益な標準が多く与えられています。その標準に従えば従うほど、わたしたちは前進します。標準を軽視すればするほど、自分自身の進歩や主の業の発展を妨げることになります。わたしたちに与えられている標準は、すべて神から与えられたものです。中には世の標準と比べれば少し時代遅れに見えるものがあるかもしれませんが、しかし、たとえそのように見えたとしても、決してその正当性が損なわれるわけでも、実践する価値が失われるわけでもありません。いかに巧みでもっともらしく聞こえても、人の理論が神の宣言された知恵を変更することはできないのです。

ウィスコンシン州ミルウォーキー北ステークの祝福師、ハンス・キント兄弟から次のような言葉を聞いたことがあります。「神は人間の支持を求めることに熱心な『日の栄えの政治家』ではありません。神は、わたしたち人間の方から求め、従うべき御方なのです。」

心から喜ぶべきことがあります。それは、従順は幸福を招き、幸福は平安を、平安は発展を招く、ということです。これはすべて個々の人に約束されたことですが、個人の良い模範は、その人が属する組織の誉れとなるのです。

人と争う必要はない

神から与えられた標準に従うという理由で、周囲の人と敵対する必要はまったくありません。人と争う必要はないのです。確かな道を歩み続けるなら、その模範そのものが、わたしたちの携わっている大義の価値を最も雄弁に物語ることになるのです。

主はわたしたちが迷わなくても済むように、数多くの点について勧告や戒めを授けられました。主は個人の徳、隣人関係、法律の遵守、国家への忠誠、安息日を聖く保つこと、酒やたばこを摂取しないこと、什分の一とささげ物、貧しい人の世話、家庭生活の向上、福音を分かち合うこと、そのほか多くのことについて、明確な指針を定めておられます。

このどれ一つについても、人と争う必要はありません。確かな道を歩み、生活の中で宗教を実践していくなら、ほかのいかなる方法よりも力強く御業を推し進めていくことができます。

わたしたちを誘惑しようとする人もいることでしょう。だまそうしたり、さげすんだり、あざけったり、ののしったりする人もいるでしょう。世の笑い物にされるようなこともあるかもしれません。

教会の内外を問わず、ある事柄に関するわたしたちの信念を無理に変えさせようとする人もいます。そのような人々は神だけがお持ちになる権能を奪い取る権利が自分にあると考えているのです。

わたしたちには人と争いたいという望みはありません。わたしたちが教えているのは平和の福音です。自分が預言者として支持している人々を通して授けられた主の言葉を捨てるようなことがあってはなりません。バーバラ・タックマンの助言の中にある確信に満ちた言葉を再び引用しますが、わたしたちは毅然として立ち、「わたしはこう信じている。これはするが、あれはしない。これはわたしの行動規範に合致するが、それは合致しない」とはっきり述べる必要があります。

人生の中には、失意の時もあれば不安にさいなまれる日もあるでしょう。また決断を迫られる時もあります。それはいつの世にも避けて通ることのできないものでした。

今 は価値観や標準が揺れ動き、

変化している

時代です。

人を過ちへ導く

様々な企てが

次々に生まれては

消えていきます。

開拓者の模範

この教会の会員であれば、開拓者が自らの信仰のためにどのような犠牲を払ったかについて、何がしかのことを知っているはずですが、わたしは妻の祖母メアリー・ゴープル・ペイの記録を読むときに、

そのことを思い起こします。メアリーが13歳だったときの話を少し紹介したいと思います。

メアリーはブライトンでの子供時代について書いています。サセックス州のブライтонは、緑の丘がなだらかな曲線を描いて海に続く、イギリス南海岸の美しい町です。

メアリーの家族はこの町でバプテスマを受けました。教会が真実であるという御霊のささやきを受けた家族にとって、改宗するのはごく自然のことでした。しかし親戚や隣人の中には批判的な人もいました。暴徒のあざけりも受けました。暴徒に影響された人々は彼らに反感を抱きました。そのような中で、確固として立ち、公然と教会を擁護し、バプテスマを受け、自分がモルモンであると認めるのには、勇気、まさに真の勇気を必要としました。

メアリーの家族は後にリバプールへ旅し、そこで約900人の教会員とともに「ホライゾン号」という帆船に乗り込みました。

帆が風をはらむと、「さらば、我が祖国、さらば」という歌声が上がりました。今ではジェット機で6時間もあれば着くボストンへ、6週間の船旅をしてようやく上陸しました。そこから蒸気機関車に乗り、大草原を横断するのに必要な物をそろえるため、アイオワシティーへと向かいました。

アイオワシティーに着くと、雄牛4頭、雌牛2頭、それに荷車とテントを買い込みました。メアリーの家族はある手車隊を援助しながらともに旅をする割り当てを受けました。

アイオワシティーにいるときに、最初の悲劇が起こりました。2歳にもならない末の子が厳しい気候のために死んでしまい、墓に葬られました。家族がその墓を訪れることはその後二度とありませんでした。

メアリー自身が13歳のときに書いた言葉を引用しながら、この物語を続けましょう。

「わたしたちは1日に15から25マイル〔約25から40キロ〕進み……プラット川に着きました。……その日、手車隊と合流しました。手車隊の人たちが川を渡るのを見ました。川には大きな氷の塊が流れていて、ひどい寒さでした。……野営地に戻ってお祈りをし、……『恐れず来たれ、聖徒』を歌いました。〔その夜〕なぜか母が泣いていました。……翌朝になると妹が生まれました。9月23日でした。エディスと名付けました。エディスは1か月半で亡くなりました。〔エディスは〕スウィートウォーター川を渡った所で埋葬されました。

確かな道を
歩み続ける
なら、
その模範そのものが、
わたしたちの
携わっている
大義の価値を
最も雄弁に物語る
ことになるのです。

〔激しい吹雪に襲われました。わたしは雪の中で迷子になりました。〕つま先からずっと上まで凍えてしまったので、〔男の人たちが〕……足を雪でこすり、それからバケツの水の中に入れてくれました。ものすごい痛みでした。……

デビルズゲートに着いたとき、ひどい寒さでした。持ち物はほとんどそこに置いて来ました。……兄のジェームズは……〔その夜〕床に就くときはいつもと同じ様子



だったのに、次の朝には死んでいました。……

足が凍傷になりました。弟のエドウィンや姉のキャロラインも同じでした。ただ雪だけ。〔どこを見ても雪だけです。それに、刺すようなワイオミングの風。〕テントの杭も打てません。……この先どうなるのか分かりませんでした。〔すると〕ある晩一人の男の人が野営地にやって来て、ブリガム・ヤングがわたしたちを助けるために人と馬車を送った……と伝えてくれました。……わたしたちは歌を歌い、ある人は踊り、ある人は泣きました。……

母の具合は相変わらず優れません。……リトルマウンテンとビッグマウンテンの間で死んでしまいました。……43歳でした。……

ソルトレーク・シティーに到着したのは、1856年12月11日の夜9時です。生きている人の4人に3人が凍傷にかかっています。母の遺体は荷車に置かれたままでした。……

翌朝早くブリガム・ヤング兄弟が……来ました。……彼はわたしたちの様子——凍傷にかかっているわたしたちの足や、母の遺体——を見て、涙を流しました。……

医者がわたしのつま先を両足とも切断しました。……〔その間に〕姉たちが母に埋葬衣を着せました。……足の処置が終わると、最後に一目母を見られるよう、わたしたちを〔連れて行ってくれました。〕一体どのようにして、わたしたちはあの悲しみに耐えたのでしょうか。その日の午後、母は埋葬されました。……

〔わたしは、イギリスを出発する前に母が口にした言葉をよく思い起こします。〕『ポリー〔訳注——メアリーの愛称〕、子供たちが小さいうちにシオンへ行きたいわ。そうすればキリストの福音の中で育てることができるでしょう。わたしはこの教会が真実の教会だって知っているのよ。』⁴

最後に皆さんに尋ねます。開拓者が信仰のためにこれほどの代価を払ったのだとすれば、ささいな批判に耐えられない犠牲を求められたからといって、わたしたちは驚いていられるでしょうか。

人と争うことなく、怒ることなく、確かな道を歩み、神の王国の建設のために前進しましょう。困難な問題にぶつかったときには、冷静に対処しましょう。善をもって悪を打ち

負かしましょう。これは神の業です。この業は今後も全地で力を増し、真理のメッセージに応じる無数の人の生活を向上させていくことでしょう。天の下に、神の業を妨げ得る力は存在しないのです。

これはわたしの信仰であり、証です。■

注

1. "Proclamation," *Millennial Star*, 1845年3月号, 151-152
2. *History of the Church*, 第2巻, 431
3. "The Missing Element - Moral Courage," *McCall's*, 1967年6月号, 28
4. *A Pioneer Story: Mary Goble Pay, 1856*, 末日聖徒イエス・キリスト教会家族・教会歴史部記録保管庫, 2-4, 10

ホームティーチャーへの提案

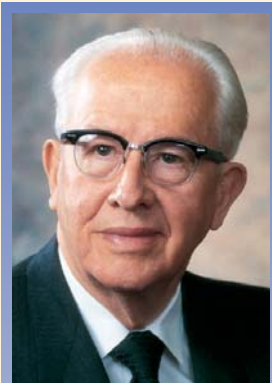
よく祈って準備した後、あなたが教える人々の参加を促すような方法を用いて、このメッセージを分かち合ってください。幾つかの例を以下に紹介します。

1. 預言者ジョセフ・スミスが預言した言葉の最初の3文を暗記できるように担当家族一人一人を助ける（「最良の防御」の第2段落参照）。暗唱できたら、褒めるか、ささやかな褒美を上げる。確かな道を歩むとはどういう意味かについて、ヒンクレー大管長が語った考えを列挙し、話し合う。

2. ヒンクレー大管長はバーバラ・W・タックマンの言葉を引用しながら、道徳的な強さについてどのように述べているだろうか（「確かな道を歩む」の第4段落参照）。道徳的な強さを求められる状況を演じるように家族に勧める。年少の子供たちに、道徳的な強さとは「正しいと知っていることを恐れずに行う」ことであると説明する必要があるかもしれない。柔和でありながらも道徳的な勇気を示すにはどうすればよいか話し合う。

3. 預言者ジョセフ・スミスの預言の中で述べられている義人に対する約束は、メアリー・ゴープル・ペイの生涯の中でどのように成就しただろうか。ヒンクレー大管長の最後の質問について話し合う。預言者ジョセフ・スミスの勧告に従ってもっと忠実に生活するにはどうしたらよいだろうか。

モルモン書と 教義と聖約



第13代大管長
エズラ・タフト・ベンソン (1899–1994年)

エズラ・タフト・ベンソンは、1899年8月4日、アイダホ州ホイトニーで、サラ・ダンクリー・ベンソンとジョージ・タフト・ベンソン・ジュニアのもとに生まれました。1926年9月10日にフローラ・スミス・アムッセンと結婚し、1943年10月7日、44歳のときにヒーバー・J・グラント大管長から十二使徒に聖任されました。1953年から1961年までは、合衆国の農務長官を務めました。そして、1973年12月30日に十二使徒定員会会長として聖任され任命を受けました。1985年11月10日に86歳で教会の第13代大管長となったベンソン大管長は、8年余り奉仕し、1994年5月30日にソルトレーク・シティーで亡くなりました。聖文を研究するよう促してきたベンソン大管長は、モルモン書と教義と聖約について証^{あかし}しています。

教義と聖約は、
モルモン書と
預言者ジョセフ・スミスや
その後継者を通して
進められてきた
回復の業を
結びつけるものです。

わ たしは現代の二つの神聖な聖典、すなわちモルモン書と教義と聖約について話します。

モルモン書と教義と聖約はともに、民を集め、主の再臨に備えるために、イスラエルの神から与えられた啓示として世に出されました。

「荒れた世を救うために」これらの神聖な聖典が世に出されるには、「19世紀の最も貴い血」(教義と聖約135:6)、すなわちジョセフ・スミスとその兄ハイラムの血が求められました。

これらの神聖な証には、世のすべての人に対するすばらしい宣言が記されています。モ

ルモン書のタイトルページと、主がはしがきとして与えられた教義と聖約の第1章がそれに当たります。

主はジョセフ・スミスに、「この時代の人々は、あなたを通してわたしの言葉を受ける」とおっしゃいました(教義と聖約5:10)。そして確かに人々は、モルモン書と教義と聖約、またほかの現代の啓示を通して神の言葉を与えられてきたのです。

モルモン書と教義と聖約は互いを証しています。一方を信じて、他方を信じないということはできません。

モルモン書は現代に与えられた聖典を証しています。モルモン書に、「ほか……の書物」「後の方の記録」と記されているそれらの聖典は、聖書が「真実であることを立証し、〔聖書〕の中から取り去られた分かりやすくて貴い部分」を明らかにします(1ニーファイ13:39-40)。

モルモン書の証人を別にすれば、教義と聖約は、モルモン書が真実であることを述べた、主から与えられた最も素晴らしい証であり、証拠です。教義と聖約の中で少なくとも13の章が、モルモン書が神の言葉であるという確かな知識と神聖な証を与えてくれます(教義と聖約1章;3章;5章;8章;10-11章;17-18章;20章;27章;42章;84章;135章参照)。

教義と聖約は、モルモン書と預言者ジョセフ・スミスやその後継者を通して進められてきた回復の業を結びつけるものです。

わたしたちは教義と聖約から、神殿の業、永遠の家族、栄光の階級、教会の組織、また、回復に関する数多くの偉大な真理を学ぶことができます。

主は教義と聖約について次のように言われました。「これらの戒めを調べなさい。これらは真実であり、確かであって、これらの中にある預言と約束はすべて成就するからである。



モルモン書

主なるわたしが語ったことは、わたしが語ったのであって、わたしは言い逃れをしない。たとえ天地が過ぎ去っても、わたしの言葉は過ぎ去ることがなく、すべて成就する。わたし自身の声によろうと、わたしの僕たちの声によろうと、それは同じである。」(教義と聖約1:37-38)

モルモン書は人々をキリストのもとへ導き、教義と聖約は神の王国、すなわち末日聖徒イエス・キリスト教会、「全地の面に〔ある〕唯一まことの生ける教会」に人々を導きます(30節)。わたしはそのことをはっきりと知っています。

モルモン書はわたしたちの宗教の「かなめ石」であり、教義と聖約は、末日に続けて与えられる啓示とともに、「かさ石」と言うことができます。主はこのかなめ石とかさ石の二つに承認の印を押しておられます。

古代に記録されたモルモン書が守られ、世に出されたことは、ニーファイの言葉を証明しています。ニーファイは次のように言いました。「主は初めからすべてのことを御存じである。したがって、人の子らの中で御自身のすべての業を成就するために、ある方法を備えておられる。それは見よ、主は御自分のすべての言葉を成就する一切の権威を持っておられるからである。」(1ニーファイ9:6)

外的な証拠はたくさんありますが、わたしたちに求められているのは、モルモン書が確かな記録であること、異論の余地のないものであることを、そのような証拠によって立証することではありません。モルモン書の真偽が学者の研究によって明らかにされたことはこれまでに一度もありませんでした。それは今も同じです。モルモン書の起源、記録の作成、翻訳、またそこに記された内容が真実かどうかの証明は、すべて主の手によってなされてきたのです。主が過ちを犯されることはありません。皆さんはそのことを確信することができます。

神はモルモン書の真偽を判断するための方法を自ら備えてくださいました。それはモロナイ書第10章、また「三人の証人」や「八人の証人」、教義と聖約の数多くの章の中に書かれています。

わたしたちは皆、聖霊を通してモルモン書に対する証を得なければなりません。そしてその証をモルモン書とともに人々に伝える必要があります。それによって人々もまた、聖霊を通

してモルモン書が真実であることを知るようになるためです。

ニーファイは、モルモン書の中には「キリストの言葉」が書かれており、「キリストを信じれば」、モルモン書も信じるようになること証しています(2ニーファイ33:10)。

人々に教えるときに、聖文に書かれている御言葉^{みことば}を用いることは非常に大切です。アルマはこう言いました。「わたし〔は〕……わたしに命じられた御方の御言葉〔によって〕、あなたがたに命じる。」(アルマ5:61)

わたしたちは、主がモルモン書の中で示された御言葉や方法に基づいて物事を判断し、福音の原則を教えなければなりません。

神はモルモン書に書かれた御言葉の力によって人々の生活を変えられます。「御言葉を説き教えることは民に

正しいことを行わせるのに大きな効果があり、ま

ことにそれは、剣やそのほか、これまで民に起

こったどのようなことよりも民の心に力強い

影響を及ぼしたので、アルマはこの

度も神の言葉の力を使うのが望まし

いと思〔いまし〕た。」(アルマ31:5)

アルマは教会の兄弟たちに、神が彼らの

先祖の霊を地獄から救われたことについて次の

ように話しました。「見よ、神は彼らの心を改めさせ、彼

らを深い眠りから覚められたので、彼らは目覚めて神に従った。

見よ、彼らはかつて暗闇^{くらやみ}のただ中にいたにもかかわらず、後に永遠の御言葉の光に照らされるようになった。」(アルマ5:7)

わたしたちは、深い眠りの中にある人々を目覚めさせ、彼らが「神に」従えるように、永遠の御言葉を用いなければなりません。

わたしが深く懸念しているのは、わたしたちがどんな場面で教えるにせよ、聖徒にイエス・キリストの福音を教えるに当たり、モルモン書や教義と聖約に記されているように完全に、そして威厳をもって教えているだろうかということです。アミュレクが語った「永遠の神の偉大な計画」を教えるとき、わたしたちはどうしているでしょうか(アルマ34:9)。

永遠の神の偉大な計画を教えるために、モルモン書や、回復の業を通して与えられた聖典に記されているメッセージや教授法を用いているでしょうか。

この偉大な計画を教えるための方法はたくさんありますが、一つだけ採り上げます。それは、モルモンが宣教師としてのアロンの働きについて簡潔に述べた言葉です。



「そこでアロンは、王が自分の言葉を信じようとするのを見て、聖文を王に読んで聞かせながら、アダムの造られたこと、すなわち神が御自分の形に人を創造されたことから始めて、神がアダムに戒めを与えられたことや、人が背きのために墮落したことを話して聞かせた。

そしてアロンは、アダムが造られたことから始めて王に聖文を説き明かし、人が墮落したことで、人類のこの世の状態と、贖いの計画について話した。この贖いの計画は、キリストの名を信じようとするすべての人のために、キリストによって世の初めから備えられたものである。

また人類は墮落したので、自分自身で何も良い報いを得ることはできなかった。しかし、信仰と悔い改めなどによって、キリストの苦しみと死が彼らの罪を贖うのである。」(アルマ 22:12-14)

モルモン書に登場する聖徒たちは、贖いの計画がアダムの墮落に始まることを理解していました。モロナイは次のように書いています。「アダムによって人の墮落が生じ、人の墮落のためにイエス・キリスト……が来られた。そして、イエス・キリストによって人の贖いがもたらされた。」(モルモン9:12)

飢えを感じなければほんとうに食べたいとは思わないように、人はキリストの必要性を理解するまで、キリストの救いを得たいとは思いません。

墮落に関する教義と、墮落が全人類に及ぼした結果を理解し受け入れるまでは、キリストの必要性を正しくまた十分に理解することはできません。またモルモン書ほど、この大切な教義をよく教えている書物は世界中のどこにもありません。

兄弟姉妹の皆さん、わたしたちは自分自身とまた自分の管理下にある人々が、永遠の神の偉大な計画を教えているかどうか注意深く見直さなければなりません。

創造、人類の墮落とアダム、キリストの贖罪による墮落からの贖いなど、啓示を通して与えられた知識を受け入れ、教えているでしょうか。



またモルモン書のアルマ書第5章に書かれている、アルマが教会員に向けた重要な質問を何度も自分自身に問いかけているでしょうか。

贖いについて理解しているでしょうか。またそれを効果的に教え、宣べ伝えているでしょうか。ゲツセマネとカルバリにおける主の苦しみは、わたしたち一人一人にとって、どのような意味があるのでしょうか。

墮落からの贖いは、わたしたちにとってどのような意味があるのでしょうか。アルマの言葉にあるように、「贖いをもたらす愛の歌」を歌っているでしょうか(アルマ5:26)。

では、永遠の神の偉大な計画を教えるとき、何を基としたらよいのでしょうか。もちろん聖典です。特にモルモン書を使ってください。末日に与えられた啓示も使うようにしてください。さらに使徒や預言者の言葉、また、御霊のささやきに基づいて教えてください。

アルマは「自分が教えたことと、聖なる預言者たちの口を通して述べられたことのほかは、何も教えないように指示」しました(モーサヤ 18:19)。

教義と聖約にはこう書かれています。「彼らは、そこから先は途中で御言葉を宣べ伝えながら旅をなささい。しかし、預言者たちや使徒たちが書き記したことで、信仰の祈りによって慰め主により教えられることのほかは何も

わ たしが
深く懸念して
いるのは、
わたしたちがどんな
場面で教えるにせよ、
聖徒に
イエス・キリストの
福音を教えるに当たり、
モルモン書や
教義と聖約に記されて
いるように完全に、
そして威厳をもって
教えているだろうか
ということです。

語ってはならない。」(教義と聖約52:9)

永遠の神の偉大な計画を教えたら、それが真実であることを個人的に証しなければなりません。

アルマは聖徒たちに、再び生まれることと、心の中に「大きな変化」を経験することの必要性についてすばらしいメッセージを伝えた後、次の証を添えてその教えを結び固めています。

「そしてこれだけではない。あなたがたは、わたしが自分でこれらのことについて知っ

ていることに気づかないのか。見よ、わたしは、自分が語ってきたこれらのことが真実であることを知っている。あなたがたは、わたしがどのようにしてこれらのことが確かであることを知ったと思うか。

見よ、わたしはあなたがたに言う。これらのことは、神の聖なる御霊によってわたしに知らされているのである。見よ、わたしは自分でこれらのことを知ることができるように、幾日もの間、断食をして祈ってきた。そして、これらのことが真実であることを、わたしは今、自分自身で知っている。主なる神が神の聖なる御霊によってこれらのことをわたしに明らかにされたからである。わたしの内にある啓示の霊によって知らされたのである。」(アルマ5:45-46)

アミュレクは後にアルマの同僚となりました。アルマがゾーラム人にキリストへの信仰について教え終えると、次にアミュレクが自分の証を述べて、アルマのメッセージを結び固めました。

「さて見よ、わたしも、これらのことが真実であることをあなたがたに証しよう。見よ、あなたがたに言う。将来キリストは、御自分の民の背きを御自身に負うために人の子らの中に来られ、世の罪を贖われる。わたしはこのことを知っている。主なる神がそう言われたからである。」(アルマ34:8)

主は教義と聖約のはしがきの中で「警告の声は、この終わりの時にわたしが選んだ弟子たちの口を通して、すべての民に及ぶ」とおっしゃいました(教義と聖約1:4)。



永 遠の神の偉大な計画を教えたら、それが真実であることを個人的に証しなければなりません。

アブラハムの子孫であるわたしたちには、宣教師となり「すべての国民にこの務めと神権を携えて行く」責任があります(アブラハム2:9)。モーセはカートランド神殿で、ジョセフ・スミスにイスラエル集合の鍵^{かぎ}を授けました(教義と聖約110:11参照)。

この集合のために神はどのような手段を備えておられるのでしょうか。それは、世の人々にイエスがキリストであられ、ジョセフ・スミスが神の預言者であること、末日聖徒イエス・キリスト教会がまことの教会

であることを確信させるために備えられたのと同じ道具です。それはわたしたちの宗教のかなめ石である聖典です。

それは最も正確な書物であり、人がその教えに従うなら、ほかのどの書物にも増して神に近づくことのできる書物、すなわちモルモン書です(モルモン書序文参照)。

神の祝福があり、すべての聖典、中でも特に、神が人をキリストのもとに導くために備えられた、わたしたちの宗教のかなめ石であるモルモン書と、人をキリストの王国である末日聖徒イエス・キリスト教会へ導くその対となる書物、すなわちかさ石である教義と聖約をともに用いることができますように。

福音についてもっと熱心に近代の啓示から学ぶならば、教え、宣べ伝える力が強まり、シオンの大義を強く推し進められるようになります。そして、より多くの人が改宗し、主の宮に参入するようになるでしょう。

皆さんがモルモン書で洪水のごとくに地を満たし、真理に飢え渴いていながらそれをどこに求めたらよいか分からないでいる神の選民を集めるために、さらに強い望みを持つことができるように祝福します。■

この話は1987年4月の総大会説教を基に、現代の表記法に合わせて編集されています。

信じなさい

ジョセフの祈りはこたえられました。
あなたの祈りもこたえられます。
(ヤコブの手紙1:5-6参照)



日付(西暦)

1

200

600

1000

1400

1500

1600

1700

■ **紀元34年** イエス・キリストの死後、使徒が新約時代の教会を導いた。

■ **100-200年** 大背教。神権の権能が地上から取り上げられた(1ニーファイ13:1-11参照)。

■ **1450年** グーテンベルクが活版印刷機を改良し、本の普及が可能となる。

■ **1492年** ^{みたま}神の御霊がコロンプスをアメリカに導いた(1ニーファイ13:12参照)。

■ **1620-1750年** 神は宗教の自由を求めるヨーロッパの新教徒を数多く北アメリカに導かれた(1ニーファイ13:13-16参照)。

■ **1500-1600年** 聖書が英語やその他の言語に新たに翻訳され、大衆も聖書を読むことが可能となった(1ニーファイ13:20-23参照)。

■ **1517年** ヨーロッパでマルティン・ルターをはじめとする改革者がカトリックに反対する。

■ **1775-83年** 独立宣言とアメリカ独立戦争の結果、自由と民主主義を目指した新しい国家が設立された(1ニーファイ13:17-19参照)。

■ **1787-91年** 合衆国憲法は宗教の自由を基本権利と定めた。

■ **300-1300年** キリスト教が世界各地に広まる。

特定できない年代もある。



教義と聖約

早見表

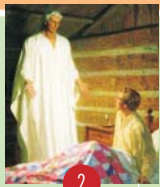
表1——第1章から第64章まで

歴史的背景および『教会歴史』(History of the Church)の該当箇所に関しては、教義と聖約各章の前書きを参照してください。



教会歴史に登場する人々

■ **1805年12月** バーモント州シャロンにて、ジョセフ・スミス・シニアと妻のルーシー・マック・スミスに、ジョセフ・スミス・ジュニアが誕生する(ジョセフ・スミスー歴史1:3参照)。



■ **1816年** スミス一家はバーモントからニューヨーク州パルマイラ地区に移り住んだ。

■ **1820年春** 最初の示現。天の御父と御子イエス・キリストがジョセフ・スミスの農場近くにある森で、14歳のジョセフと話をされた(ジョセフ・スミスー歴史1:5-20参照)。



■ **1823年9月** 天使モロナイが初めてジョセフ・スミスに現れ、近くの丘に埋められた金版について告げる。その後もモロナイの訪れが続く(ジョセフ・スミスー歴史1:29-54参照。教義と聖約2章も参照)。

**パルマイラ/
マンチェスター
ニューヨーク**

■ **1825年10月** ジョセフ・スミスはジョサイア・ストールのもとで働き始める。そこで雇用されているときエマ・ヘイルに会う(ジョセフ・スミスー歴史1:55-57参照)。

■ **1827年1月** ジョセフ・スミスとエマ・ヘイルはニューヨーク州ベインブリッジで結婚する(ジョセフ・スミスー歴史1:57参照)。



■ **1827年9月** モロナイがジョセフ・スミスに神聖な版とウリムとトンミムを預ける(ジョセフ・スミスー歴史1:59参照)。

■ **1827年12月** ジョセフ・スミスとエマは迫害を逃れてペンシルベニア州ハーモニーへ移る(ジョセフ・スミスー歴史1:60-62参照)。

■ **1828年2月** マーティン・ハリスは金版から書き取った文字の写しとその翻訳をニューヨーク市の学者のもとへ持って行く(ジョセフ・スミスー歴史1:62-65参照。イザヤ29:11-12も参照)。



■ **1828年4-6月** マーティン・ハリスを筆記者に、ジョセフ・スミスはモルモン書の最初の116ページの翻訳を終える。マーティンが原稿を紛失した後、モロナイはジョセフから版を取り去る。

■ **1828年夏** ジョセフ・スミスは悔い改め、版と翻訳の賜物を再び授かった(教義と聖約3章; 10章参照)。

**ハーモニー
ペンシルベニア**

章(表中の丸数字も参照), その章の啓示が与えられた日付および状況。

1. **1831年11月1日**。啓示を集めた書物を『戒めの書』(Book of Commandments)として出版することになり、そのはしがきの草稿を練るための委員会が任命された。ある大会において委員会が、集まった長老たちに報告を出したところ、彼らは自分たちの取り組んでいる業について主に尋ねることを預言者ジョセフ・スミスに依頼した。預言者は御霊によってこの啓示の言葉を口述し、シドニー・リグドンが記録した。(この出来事については表2で採り上げる。)
2. **1823年9月21日**。神の現れを得ることができると信じていた年若いジョセフ・スミスは、罪の赦しを求めため、また、神の前における自分の立場を知るために祈った。
3. **1828年7月**。マーティン・ハリスが116ページに及ぶモルモン書の原稿を紛失した後、ジョセフ・スミスは、神の前における自分の立場を知ることがを願い、ウリムとトンミムを通して尋ねた。
4. **1829年2月**。ジョセフ・スミス・シニアは、どのように主の業に助力できるかを主に尋ねるよう息子に願った。

5. **1829年3月**。悔い改めたマーティン・ハリスは、ジョセフ・スミスに今もまだ版を所有しているか尋ね、その版を見る特権が自分にもあるかどうか主に尋ねることを願った。
6. **1829年4月**。ジョセフ・スミスの新しい筆記者オリバー・カウドリは、この翻訳の業が真実であることを示すさらなる証を望み、預言者はウリムとトンミムを通して主に尋ね求めた。
7. **1829年4月**。ジョセフ・スミスとオリバー・カウドリが版の翻訳に携わっていたとき、主の愛弟子であるヨハネがどうなったかについて意見の相違があり、二人はウリムとトンミムを通して主に尋ね求めた。
8. **1829年4月**。翻訳の賜物を約束されていた(教義と聖約6:25参照)オリバー・カウドリは、翻訳そのものを手伝うことを望んだ。
9. **1829年4月**。翻訳しようとする試みに失敗したオリバー・カウドリのために、ジョセフ・スミスは失敗の理由を主に尋ねた。
10. **1828年夏**。ジョセフ・スミスに第3章が与えられた後、モロナイは版とウリムとトンミムを取り上げた。間もなくそれらは返された。預言者ジョセフは、どのように翻訳を続けるべきか主に尋ねた。

11. **1829年5月**。ハイラム・スミスは弟のジョセフに、自分に対する主の御心を探ることを願った。ジョセフはウリムとトンミムを通して尋ねた。
12. **1829年5月**。ジョセフ・ナイト・シニアは回復の業に関する自分の義務を知ることを熱心に願った。
13. **1829年5月15日**。モルモン書を翻訳中、ジョセフ・スミスとオリバー・カウドリは罪の赦しのためのバプテスマについてさらに詳しく知りたいた願った。二人は近くの川まで歩いて行き、祈りをささげた。バプテスマのヨハネが現れた。
- 14, 15, 16. **1829年6月**。デビッド・ホイットマー、ジョン・ホイットマー、ピーター・ホイットマー・ジュニアは主の業における自分たちの義務を知ることを熱心に願った。ジョセフ・スミスは彼らのためにウリムとトンミムを通して願い求めた。
17. **1829年6月**。オリバー・カウドリ、デビッド・ホイットマー、マーティン・ハリスは、モルモン書に書かれている三人の証人となるのが自分たちであるかどうかを知りたいと願った。ジョセフ・スミスはウリムとトンミムを通して願い求めた。
18. **1829年6月**。ジョセフ・スミスとオリバー・カウドリは神権について詳しく知ることを願い、謙遜に祈って尋ねた。



ジョセフ・スミス・シニア
1771-1840年



ルーシー・マック・スミス
1775-1856年



ジョセフ・スミス・ジュニア
1805-44年



エマ・ヘイル・スミス
1804-79年



マーティン・ハリス
1783-1875年

絵(左)ノロバート・T・バレット画。上(左から)「それゆえに、あなたがたは行って、すべての国民を教えよ」ハリー・アンダーソン画。「クリストファー・コロンブス」作者不詳。独立宣言署名の再現 © COMSTOCK。「最初の示現」トム・ホルドマン画。© Intellectual Reserve, Inc. 複写は禁じられています。「ジョセフ・スミスに現れた天使モロナイ」トム・ラベル画。ナディーン・パートンの作品の一部。「マーティン・ハリスとアンソン教授」ウィリアム・ホイッター画。下(左から)「協議中のスミス一家」の一部、ポール・マン画。複写は禁じられています。「家を出るルーシー・マック・スミス」の一部、ポール・マン画。複写は禁じられています。「アメリカの預言者」デル・バーソン画。複写は禁じられています。「エマ・ヘイル・スミス」リー・グリーン・リチャーズ画。

教会本部

ニューヨーク州フェイエット：1829年6月-1831年1月

4

5

6-9

11-12



13

1829年5月 バプテスマのヨハネがアロン神権を回復する。ジョセフ・スミスとオリバー・カウドリは互いに聖任しバプテスマを施した(ジョセフ・スミス—歴史1:68-73参照。教義と聖約13章も参照)。

1829年5-6月 ペテロ、ヤコブ、ヨハネがメルキゼデク神権と使徒職の鍵を回復する。



19. 1830年3月。 モルモン書出版のために農場を抵当に入れていたマーティン・ハリスは、主からの確認と指示を受けてほしいとジョセフ・スミスに願った。

20. 1830年4月。 主はジョセフ・スミスとオリバー・カウドリに、地上に再び主の教会を組織する正確な日付を含め、教会の管理体制と組織に関する指示を明らかにされた。

21. 1830年4月6日。 預言者ジョセフ・スミスは教会を組織する集会において、御霊によりこの啓示を口述した。

22. 1830年4月。 以前にバプテスマを受けたことのある人たちが、教会に入るために再度バプテスマを受ける必要があるかどうか知ることを願った。

23. 1830年4月。 オリバー・カウドリ、ハイラム・スミス、サミュエル・H・スミス、ジョセフ・スミス・シニア、ジョセフ・ナイト・シニアは、この新たに組織された主の教会における自分たちの義務を知ること熱心に願った。

24. 1830年7月。 厳しい迫害の中、ニューヨークの会員への務めを終えた後ペンシルベニアに到着した預言者ジョセフとオリバー・カウドリは、励ましと指示を必要としていた。

25. 1830年7月。 エマ・ヘイル・スミスも、夫である預言者ジョセフとともにひどい迫害を受けていた。預言者は彼女のためにこの啓示を受けた。

1829年6月 ジョセフ・スミスはモルモン書の翻訳を完了する。

14-16, 18

17

1829年6月 天使モロナイが三人の証人に版を見せ、モルモン書が真実であることを証するよう命じる(教義と聖約17章参照)。

1829年6月 ジョセフ・スミスは八人の証人に版を見せる。8人はモルモン書が真実である証を書く。



フェイエット
ニューヨーク

1830年4月 末日聖徒イエス・キリスト教会がニューヨーク州フェイエットで組織される(教義と聖約21章参照)。



1830年4-7月 サミュエル・H・スミスをはじめ宣教師がモルモン書を使って伝道し、多くの人にバプテスマを施す。

1830年3月 ニューヨーク州パルマイラにおいて5,000部の英語版モルモン書が出版される。

20-21

19

22-23

26. 1830年7月。 教会ではすべてのことに対して全員の同意を得て行うことが重要であると主は説かれた。主からのこれらの指示は、預言者ジョセフとオリバー・カウドリ、およびホイットマー家の人々を励まし、導くものとなった。

27. 1830年8月。 預言者ジョセフ・スミスと妻エマ、および、ニューエル・ナイトと妻リディアは聖餐を受けることを願った。預言者が聖餐式に用いるぶどう酒を手に入れようと出かけたときに天の使者が現れた。

28. 1830年9月。 預言者ジョセフは、ハイラム・ページが聖見者の石を使っていることについて心を悩ませていた。

29. 1830年9月。 大勢の人がシオンすなわち新エルサレムに関する教義について関心を寄せる中、6人の長老が居合わせた場所でこの啓示が与えられた。

30. 1830年9月。 預言者ジョセフは、デビッド・ホイットマー、ピーター・ホイットマー・ジュニア、ジョン・ホイットマーのハイラム・ページ騒動における行動に対してこの啓示を受けた。

31. 1830年9月。 トーマス・B・マーシュは自分自身に対する主の御心を知ることを願った。

32. 1830年10月。 オリバー・カウドリ、ピーター・ホイットマー・ジュニアをはじめ数人の長老は、レーマン人に福音を教えるために任命される宣教師の数を増やすことができなかつたかと考えた。

33. 1830年10月。 新たに長老の聖任を受けたエズラ・セアとノースロップ・スイートは自分たちに対する主の御心を知ることを願った。

34. 1830年11月4日。 オーソン・プラットは自分に対する主の御心を知るために200マイル(約320キロ)を旅して預言者ジョセフ・スミスと面会した。

35. 1830年12月。 バプテスマを受けて間もないシドニー・リグドンは、自分に対する主の御心を探るために預言者ジョセフに願った。

36. 1830年12月。 エドワード・バートリッジは、自分のために主に尋ね求めるよう、預言者ジョセフに願った。

37. 1830年12月。 ニューヨークでは教会に対する迫害はとどまるところを知らず、教会指導者の生命が危険にさらされていた。靈感による聖書の翻訳に従事していた預言者ジョセフとシドニー・リグドンは、主はオハイオへ移動するようにという命令をお与えになった。

38. 1831年1月2日。 聖徒の多くは貧しく、オハイオへの移動について詳しく知ることを願った。

39. 1831年1月5日。 約40年間バプテスマ派の牧師を務めたジェームズ・コービルは、預言者ジョセフ・スミスを通して与えられるいかなる主の戒めにも従うと主に約束した。預言者は彼のために主に尋ね求めた。

40. 1831年1月。 ジェームズ・コービルは主の戒めを拒んだ。主は、この啓示を預言者ジョセフとシドニー・リグドンに与えられた。

41. 1831年2月4日。 預言者ジョセフはオハイオの聖徒の間に多くの問題があることを知り、教会を管理するための最良の方法を主に尋ね求めた。

42. 1831年2月9日。 長老たちは、教義と聖約38:32と41:2-3で約束された主の律法を受けることを願い、心一つにして祈った。

43. 1831年2月。 女預言者と名乗るハブル夫人が主張する啓示に欺かれる聖徒たちが出てきた。預言者ジョセフはこの件について主に尋ねた。



オリバー・カウドリ
1806-50年



ハイラム・スミス
1800-44年



ジョセフ・ナイト・シニア
1772-1847年



デビッド・ホイットマー
1805-88年



ジョン・ホイットマー
1802-78年

1830年6月 預言者ジョセフ・スミスは聖書の翻訳(靈感による変更)に着手する(モーセ1-5章参照)。

1830年9-10月 オリバー・カウドリら数人がレーマン人の子孫を教えるために召される(教義と聖約28:8:32章参照)。

1830年10-11月 オハイオ州北東部を訪れた宣教師たちは127人にバプテスマを施す。

1830年11-12月 預言者ジョセフ・スミスは古代エノクの書の一部を啓示により受ける(モーセ6-7章参照)。

1831年2月 預言者ジョセフ・スミスと家族がオハイオ州カートランドに着く。エドワード・パートリッジが教会の初代監督に召され、主は奉献の律法を示し始められる(教義と聖約41-42章参照)。

カートランド/ トンプソン オハイオ



1831年2-5月 ニューヨーク州各地の支部から聖徒がオハイオ州カートランド地区に来る。カートランド周辺の町に住む人たちが教会に加入する。



1831年7-8月 預言者ジョセフ・スミスとシドニー・リグドンがミズーリを訪れ、その土地を集合の地、および神殿用地として奉献する(教義と聖約57-59章参照)。

1831年8月 預言者ジョセフ・スミスがミズーリからカートランドに戻る。反対活動と背教が続く。

1831年9月 預言者ジョセフ・スミスとエマがオハイオ州ハイラムに移る。

- 24-26
- 27
- 28-31
- 32-33
- 34
- 35-37
- 38-40



44. 1831年2月。預言者ジョセフとシドニー・リグドンが教会の次回大会に関して主から指示を受けた。

45. 1831年3月7日。多くの偽りの記事が出版されていたとき、時のしるしに関して預言者ジョセフはこの啓示を受けた。

46. 1831年3月8日。聖餐と確認の集會に出席できるのは教会員に限られるのかどうかを協議した後、預言者は主に尋ねた。

47. 1831年3月8日。ジョン・ホイットマーは、教会歴史を記録する責任を不本意ながら受け、主の御心であるなら果たそうと考へた。そこで預言者ジョセフが主に尋ねた。

48. 1831年3月。教会の指導者は、ニューヨークからオハイオに到着する聖徒たちの受け入れをどうするか苦心していた。そのことについて預言者ジョセフは主に尋ねた。

49. 1831年3月。シェーカー派からリーマン・コブリーが新たに改宗したことで、預言者ジョセフはこの宗派の幾つかの教義について主に尋ね求めた。

50. 1831年5月。聖徒の間に奇妙な霊の現れが広まり、数人の長老はこれについて主に尋ねるよう預言者ジョセフに頼った。この長老たちとの祈りの後、預言者は主の答えを口述した。

51. 1831年5月。エドワード・パートリッジ監督は、オハイオに到着する聖徒たちのために奉献の律法の実施方法について指示を求めた。

52. 1831年6月7日。大祭司たちが初めて聖任された総大会後、預言者ジョセフはこの兄弟たちが次回の大会まで何をなすべきか主に尋ね求めた。

53. 1831年6月。シドニー・ギルバートは、教会における自分の召しについて主に尋ねてほしいと預言者ジョセフに頼った。

54. 1831年6月。リーマン・コブリーはオハイオ州トンプソンにある自分の土地を奉献するという合意を破った。預言者ジョセフは対処の方法を主に尋ねた。

55. 1831年6月。新聞の編集者であったウィリアム・W・フェルプスは、自分について主に尋ね求めるよう預言者ジョセフに頼った。

56. 1831年6月。エズラ・セアのミズーリ出発への準備が整わないことで、旅の同行者であったトーマス・B・マーシュが預言者に何をすべきか尋ねた。

57. 1831年7月20日。ミズーリ州インディペンデンスに到着した預言者ジョセフは、終わりの時におけるシオンの建設とそこに建つ神殿に関する答えを主に求めた。

58. 1831年8月1日。ミズーリ州ジャクソン郡に到着した聖徒の多くが、自分たちに対する主の御心を知ること熱心に頼った。

59. 1831年8月7日。ポーリー・ナイトの葬儀の後、預言者ジョセフはミズーリにいる聖徒たちに関して主の確認を求めた。

60. 1831年8月8日。宣教師がオハイオへの帰還に備えるに当たり、預言者ジョセフはその旅路について尋ねた。

61. 1831年8月12日。ミズーリ川で起こったカヌー事故により、預言者ジョセフと10人の長老は野宿を余儀なくされた。ウィリアム・W・フェルプスは減ぼす者が力をもって水面を進んで行くのを見た。預言者は主に祈り求めた。

62. 1831年8月13日。預言者ジョセフはミズーリまでの旅程に遅れを取っている4人の宣教師と会い、そのまま旅を続けるよう励ました。

63. 1831年8月。オハイオの聖徒はシオンの地について詳しく知ることを頼った。預言者ジョセフは、土地の購入とその他の件について主に尋ねた。

64. 1831年9月11日。預言者ジョセフは同胞や新聞の批判を受けるが、主はあら探しをしてはいけないと警告をお与えになった。



ピーター・ホイットマー・ジュニア
1809-36年



サミュエル・H・スミス
1808-44年



ニューエル・ナイト
1800-47年



シドニー・リグドン
1793-1876年



エドワード・パートリッジ
1793-1840年

上(左から)「メルキゼデク神像の回復」ケネス・ライリー画。「ジョセフ・スミスとオリバー・カウドリを訪れるバプテスマのヨハネ」© Del Parson 複写は禁じられています。「金版を見る8人の証人」ポール・マン画。複写は禁じられています。サミュエル・H・スミスの絵/ロバート・T・パレット。「1830年4月6日。教会が組織された日」デール・キルボーン画。「カートランドへ移る聖徒たち」サム・ローラー画。複写は禁じられています。「ミズーリ州インディペンデンスの神殿用地奉献」デール・キルボーン画。下(左から)「ハイラム・スミス」ルイス・A・ラムゼー画。「ジョセフ・スミス、およびジョセフ・ナイトと息子たち」の一部、ポール・マン画。複写は禁じられています。「デビッド・ホイットマー」ルイス・A・ラムゼー画。「ピーター・ホイットマー」ウィリアム・ホイッタカー画。「サミュエル・H・スミス」ブラッド・テア画。「ジョセフ・スミス、およびジョセフ・ナイトと息子たち」の一部、ポール・マン画。複写は禁じられています。



David O. McKay

デビッド・O・マッケイ

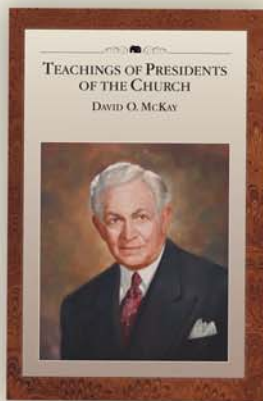
信仰の大使

マッケイ大管長は教会の長として奉仕した19年間、世界中の人々に手を差し伸べた。
その間、教会員数は3倍近くにまで増加した。

ウェード・マードック

1953年のある雨の朝、79歳のデビッド・O・マッケイ大管長はスコットランドのサーソを訪れました。回復された福音を100年以上も前に受け入れた先祖の家を自分の目で確かめるためでした。この訪問でマッケイ大管長に同行した息子のルウェリンは、次のように回想しています。「わたしたちがその家に近づくと」喜びと幸せを感じていた父の心を表すかのように、雲の間から太陽が顔を出して、わたしたちにはほほえみかけた。全員が家の前に集まったとき、ドアの奥を見る父の目に涙が光っていた。「1850年ごろに二人の宣教師がこのドアをノックしなかったら、わたしは今日ここにいることはなかっただろう。」¹ マッケイ大管長はそう言いました。

その家はすっかり荒れ果て、ジャガイモの貯蔵に用いられるだけの建物になっていましたが、大管長は戸口の所にしばらくたたずんだまま、その家で起きた出来事を慈しむように話し続けました。マッケイ大管長がその日に表した感謝と喜びは、大管長自身の生涯と務めを具現しています。マッケイ大管長は、第9代大管長として奉仕した19年を含めおよそ64年の間、中央幹部として精力的に働き、人と福音を深く愛し、この二つを結び合わせることに喜びを見いだした預言者でした。



義にかなった両親

デビッド・オーマン・マッケイは、1873年9月8日にユタ州ハンツビルで、デビッド・マッケイとジェネット・エバンズ・マッケイの長男として生まれました。父親は、デビッドがまだ7歳の子供のころに、スコットランドへの伝道の召しに応じました。当時、母親のマッケイ姉妹は出産を控えており、農場の手伝いができるのは小さな息子のデビッドだけでした。父親が伝道の召しに応じるうえで、妻の励ましが大きな要因となったのは疑いようありません。彼女は夫の伝道の召しを知らせる手紙を読むやいなや、こう告げたのです。「もちろん受けなくてはなりません。わたしのことは心配しないで。デビッド・Oとわたしでうまくやりますから。」²

ジェネットの指導の下で、農場経営は順調に運びました。父親の伝道期間中、物質的な繁栄と並行して力強い霊的成長が家族にもたらされました。「マッケイ家では以前から家族の祈りを必ずささげることがしきたりとなっていた。そして、この小さな子供たちがすべてジェネットの手にゆだねられたとき、家族の祈りは一日の行事の中で以前にも増して大切なものになったようだった。朝と晩、順番に祈りをささげることを教えられたデビッド〔・O〕は、家庭に注がれる天からの祝福の大切さを学んだのである。」³

それから何年もたったある総大会の説教で、マッケイ大管長は祈りについて次のような子供のころの経験を分かち合いました。



上—幼年時代の
デビッド・O・マッケイ、
1877年。

下—デビッド・
マッケイ・シニアと
ジェネット・マッケイの
家族、1897年。

後列左から2番目に
立っているのが
デビッド・O。

右—イギリス諸島で
伝道中のマッケイ長老、
1898年。

「ある晩、わたしは恐怖を覚えて震えながらベッドに入っていました。幼いころは当然のことですが、(あるいは度を過ぎていたかもしれませんが、)わたしは暗闇^{くらやみ}を恐れ、泥棒や恐ろしい人、目に見えない力を怖がっていました。その晩わたしは恐怖におののいていました。けれども神は祈りにこたえてくださることを教わっていましたので、力を振り絞ってベッドから起き上がると、暗闇の中でひざまずき、恐れる気持ちを取り除いてくださるよう神に祈りました。すると、今日ここで皆さんがわたしの声を聞いているのと同じようにはっきりと、次のような声を聞きました。『怖がることはありません。あなたに害を与えるものは何もありません。』ある人たちは『空想にすぎない』と言うかもしれませんが。他人からどう言われようと、子供の祈りがこたえられて心に快い平安がもたらされたことを、わたしは知っています。』⁴

デビッドの父親の教えは、母親と同様に力強いものでした。あるとき、デビッドは弟たちや父親と一緒に干し草を集めていました。什分の一として教会に納める10番目の干し草の束を集める段になって、父親のデビッド・マッケイは、それまでの9束の干し草を集めた場所よ

りも良い場所に移動するよう子供たちに命じました。なぜそうするのか尋ねたデビッド少年に父親はこう答えました。「神にささげるものは最も良いものでなければならぬだよ。それが什分の一になる10番目の束なのだ。」それから何年もたって、デビッド・O・マッケイはそのときの経験に触れ、それは「什分の一について生涯で耳にした最もすばらしい説教」だったと語っています。⁵

年を重ねるごとに、両親の影響に対するマッケイ大管長の理解は深まっていきました。教会員に家族と家庭の大切さについて教えるとき、その内容は管長自身の個人的な経験に基づいていました。

「母親の愛を実感し、立派な父親の教えをよく守ることによって、……わたしは青少年のときに何度も誘惑の危険から遠ざかることができました。

もし世界が最も必要としているものは何かと問われたら、ためらうことなく、第1に賢い母親、第2に立派な父親と答えるでしょう。』⁶

教えることへの愛をめぐむ

少年期から青年期にかけて、デビッド・O・マッケイは、学問、運動、音楽、弁論、指導力を



含む様々な分野で、並々ならぬ能力を発揮しました。彼の最も素晴らしい才能が何かを決めるのはまず不可能でしょうが、教える能力に関して言えば、上位に位置づけることができるでしょう。

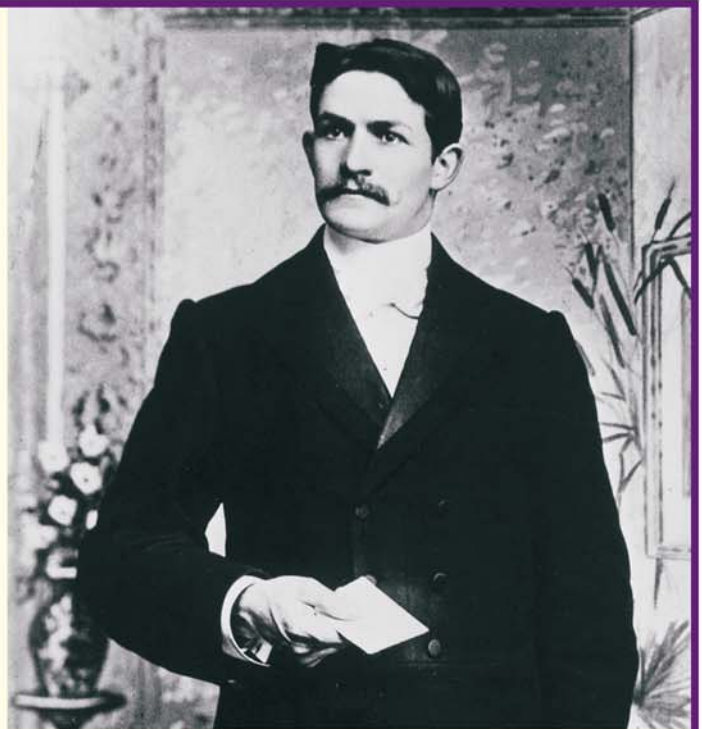
1889年、15歳のときに、デビッド・O・マッケイはワードの日曜学校書記に召され、この責任を4年間務めた後に、日曜学校の教師として召されました。日曜学校の教師として働く傍ら、ハンツビル小学校の教師兼校長としても働きました。これは大学教育を受ける前のことでした。

すでに実践経験が豊富だったデビッド・O・マッケイは1894年から1897年までユタ大学に通い、ソルトレーク郡での教師の職を約束された総代として卒業しました。しかし卒業後、教える者として別の機会を得ます。イギリス諸島で専任宣教師として働くよう召されたのです。デビッドはこの召しを1897年から1899年まで果たしました。

デビッド・O・マッケイは伝道中、数え切れないほど多くの野外集会を経験しました。ほかの宣教師とともに街角や公共の場所で伝道し、自分たちを受け入れてくれる人々にちらしやパンフレットを配りました。伝道日記からも明らかなように、どの集会もほかでは得られない経験の場となりました。ある特に難しい野外集会の後で、マッケイ長老はこう記録しています。「わたしは何度も嘆息した。」また、いつもより成果が上がったときはこう記しています。「興味深い会話が幾つかできた。先週ちらしを受け取った人は、ほとんど全員が今回のちらしも喜んで受け取ってくれたように思う。次の集会の日時について尋ねて来た人も何人かいた。」⁷

1898年にスコットランドでの伝道活動を監督していたとき、マッケイ長老は、新聞に掲載された教会に対する中傷記事に反論するために、グラスゴーの地方紙に手紙を書き送りました。このときも、また20年後に伝道部長として同じような状況に直面したときも、編集長あてに出した彼の手紙は功を奏する結果となりました。その論調が穏やかで、説明が理路整然としていたからです。⁸

宣教師の職から解任されるとすぐに、デビッド・O・マッケイはウィーバーステーク日曜学校管理会の一員として働き始めました。そしてクラスの再組織と活性化のために教師に働きかけ、教材を改訂するという責任を受けました。ウィーバーステークで6年間奉仕した後に、デビッドは中央日曜学校の第二副会長となりました。当時、会長として働いていたのが後の大管長ジョセフ・F・スミスです。1909年には第一副会長、1918年には会長となりました。



日曜学校の責任を果たしていた初期のころ、デビッドは公立の学校でも働きました。現在はウィーバー州立大学として知られるユタ州オグデンのウィーバーステーク・アカデミーで教鞭を執り、後に同アカデミーの学長に任命されました。デビッドの教え子の一人で後に七十人となったジョセフ・アンダーソンは、次のように回想しています。「わたしたちは一人残らず、デビッド・マッケイが大好きになりました。彼は自分の教える教科に夢中になるあまりに、時折、授業終了を知らせる鐘の音も聞こえないくらいでした。」⁹

デビッド・マッケイには、教育はすべてクリスチャンとしての人格を築くうえで役立つものでなければならない、という強い信念がありました。彼はこう語っています。「真の教育は男女を優れた数学者、外国語の達人、卓越した科学者、類まれな文筆家に作り上げることだけでなく、徳と自制と兄弟愛を身に付けた正直な人物を作ること、真理、正義、知恵、博愛、自制を、実り豊かな人生から得られる最高の特質として重んじる男女を作ることを目指している。」¹⁰

デビッド・マッケイは生涯を通じて福音を教え続けましたが、公立学校における正規の専任教師としての働きは1906年で終わりを迎えました。32歳で十二使徒に召されたからです。

夫そして父親

1901年1月2日、デビッド・O・マッケイはエマ・レイ・リッグズと結婚しました。これは彼にとって喜びの源となりました。二人の結婚生活はあらゆる人の模範となりました。実り多い結婚について教えるに当たり、マッケイ大管長はこう断言しています。



**上—ヨーロッパ
伝道部で部長を
務めていたころの
マッケイ長老と家族、
1922年—1924年。
下—大管長会、
1951年。
マッケイ大管長(中央)、
スティーブン・L・
リチャーズ第一副管長
(左)、J・ルーベン・
クラーク・ジュニア
第二副管長(右)。
右—オランダで
ドバン・H・
バンドム伝道部長(右)
とエーダ夫人(左)
とともに。**

「わたしはコートシップ、つまり求愛期間を継続させるよう強く訴えたいと思います。これは成熟した人々にも当てはまります。あまりにも多くの男女が結婚式を永遠のコートシップの始まりではなく、

コートシップの終わりであると考えて聖壇にひざまずきます。家庭生活の重荷を担うとき、そしてその時は必ずやって来ますが、優しい感謝の言葉、思いやりのある行いはコートシップの期間の甘い日々に関わった言葉や行いよりもはるかに大切です。」¹¹

マッケイ大管長はこの勧告を自らも実践しました。誕生日には妻に愛の詩を作り、妻のために車のドアを開け、愛情を込めたキスとともに「ただいま」「行ってきます」と妻に声を必ずかけました。マッケイ大管長がマッケイ姉妹とカリフォルニアを旅行した時のことです。二人の様子を眺めていた一人の少年がマッケイ姉妹に近づいて来て、大管長を指さしながらこう言いました。「あの人はきっとあなたを愛していると思うよ。」¹²

マッケイ大管長の7人の子供たちは、両親の義にかなった生活と互いに愛し合う姿から恩恵を受けました。息子のデビッド・ローレンス・マッケイは、次のように両親の思い出を語っています。「両親の寄せている期待から、わたしたちはどのような道を進むべきかを悟りました。そして両親を愛する気持ちがその道を歩む大きな励みとなっていました。両親はまずお互いを、そしてわたしたちを心から愛していたので、わたしたちは両親を愛することを学びました。」¹³

十二使徒定員会と大管長会における働き

1906年4月に十二使徒に召されたマッケイ長老は、同年10月に行われた総大会の最後の部会で、十二使徒として初めて説教壇に立ちました。「教会の会員として……、わたしたちは大会終了後、自分に課せられている責任を果たすという決意を胸に帰宅すべきです。それは中央幹部に強く勧められたからというだけでなく、自らの強い望みによってすべきなのです。」¹⁴

1920年、47歳のときに、マッケイ長老は当時の大管長会から、世界中の教会の支部や伝道部を1年間かけて訪問し強化するよう召されました。この旅は多くの点で、マッケイ大管長が管理するころの、世界に広がる教会を予感させるものとなりました。マッケイ長老と同僚であるソルトレーク・シティー・リバティーステークのヒュー・J・キャノン会長は、約6万マイル(9万6,000キロ)の道のりを旅し、将来さらに世界規模で発展する教会を導くための備えとなる知識を得たのです。

1年に及ぶ使命を終えて帰国すると、マッケイ長老はすぐにヨーロッパ伝道部を管理するために家族同伴でイギリスへ赴くよう召されました。この召しを果たすに当たり、「すべての会員は宣教師である」という言葉がマッケイ長老の口癖となりました。彼はこう教えています。「[男女を問わず会員は]母親、父親、隣人、職場の同僚、友人などを、福音を伝える使者である宣教師に引き合わせる責任があります。……個人的な接触がこれらの求道者に影響を与えるのです。……人々に探究心を起こさせるのは、あなたのあるがままの姿であって、見せかけのあなたではありません。」¹⁵

1934年、マッケイ長老はヒーバー・J・グラント大管長の副管長として奉仕する召しを受けました。1945年には、ジョージ・アルバート・スミス大管長の副管長に召されました。この期間に、マッケイ長老は貴重な経験を積み、実務と宗務の両面において教会を管理する重責を担ったのです。



1951年の春、マッケイ大管長とマッケイ姉妹は、待ちに待った休暇を取るべくソルトレーク・シティーを後にしました。しかし、その最初の夜に、マッケイ大管長は教会本部に戻った方がよいというはっきりした気持ちを感じて目が覚めたのです。二人は、翌朝、教会本部に戻りました。それから数週間とたたないうちに、スミス大管長は脳卒中で亡くなりました。¹⁶

世界に広がる教会の預言者、大管長

1951年4月、大管長会ですでに17年にわたって働いてきたデビッド・O・マッケイは、教会の第9代大管長となりました。当時、教会員数はちょうど100万人を超えたところで、儀式が執行できる神殿は8つありました（すべての神殿が合衆国、ハワイ、カナダにありました）。

マッケイ大管長は、教会が世界的に発展し続ける姿を見ようと決意していました。発展の鍵^{かぎ}は伝道活動でした。1952年、大管長会は初めて専任宣教師のための正式な福音教授法を紹介すると、1961年には世界中の伝道部長のために初のセミナーを開催し、伝道活動における模範とフェローシップの大切さを教えました。マッケイ大管長は「すべての会員は宣教師である」という概念を強調しました。

世界中の聖徒を個人的に強めることが、教会が発展する

ためのもう一つの鍵であると感じたマッケイ大管長は、ある総大会説教の中で、教会の大管長としてこう宣言しました。「神が教会を祝福してくださるよう願っています。教会は全世界に広がっています。あらゆる国民に教会の影響力が及ぼされなければなりません。あらゆる人々が神の御霊^{みたま}を受けて、善意と平和に心を向けることができますように。」¹⁷ 1952年から1963年の間に、マッケイ大管長は、ヨーロッパの聖徒を数回にわたって訪問し、南アフリカ、南アメリカ、さらには南太平洋と歴訪しました。

また、マッケイ大管長は、もっと多くの教会員に神殿の祝福を受けてほしいと望みました。在任中に、マッケイ大管長はスイス・ベルン神殿、カリフォルニア州ロサンゼルス神殿、ニュージーランド・ハミルトン神殿、イギリス・ロンドン神殿、カリフォルニア州オークランド神殿を奉獻しました。大管長は「イエス・キリストの回復された教会の際立った特徴の一つは、その儀式の永遠性で〔ある〕」¹⁸ という確信の下に、こう記しています。「わたしは神殿を人々のもとへ届けたい。」

マッケイ大管長は、世界中で偉大な魂の指導者という評価を受けました。1952年、オランダ女王を訪問したときに、マッケイ大管長夫妻は紅茶を勧められました。二人が宗教上の理由で紅茶を断わると、女王はこう尋ねました。「オランダの女王と一緒に少しのお茶も飲めないとおっしゃるのですか。」マッケイ大管長は答えました。「130万の民を指導する者に対して、彼が民にしてはいけないと教えていることを自らするようにおっしゃるのですか。」女王は答えました。「あなたは偉大な方です、マッケイ大管長。そのようなことをするようには申しません。」¹⁹

教会員はマッケイ大管長の話を聞くのが大好きでした。一緒にいるだけで幸せでした。数多くの職務があったにもかかわらず、一人一人との握手が終わるまでは、集会が終わってもなかなかその場を立ち去らないことがよくありました。イギリス・ロンドン神殿の奉獻に出席した一人の教会員は、預言者にあいさつしようと「長い列に並び、」やっと自分の番になったときのことをこう回想しています。「単なる群衆の中の一人として扱われやすい状況にあっても、預言者はわたしたち一人一人に、自分は特別であるという気持ちを抱かせてくれました。」²⁰

マッケイ大管長の健康は、1960年代から衰え始めました。そのため二人の副管長以外にも副管長が召されました。





**上——映画「十戒」の
セットに立つ
マッケイ大管長夫妻、
1955年。
映画監督の
セシル・B・デミルと
(モーセの衣装を
着けた)俳優の
チャールトン・ヘストン
とともに。
右下——晩年の
マッケイ大管長。
ヒュー・B・ブラウンは
マッケイ大管長
について
「人間として
可能なかぎり、
キリストに近い生涯を
送りました」
と語った。**

それでもマッケイ大管長は大会説教を通じて会員を強め続けました。直接に話すこともありましたし、息子に代読してもらったこともありましたが、

1970年1月にマッケイ大管長が亡くなったときに、教会の会員数は300万近くになっていました。疲れを知ることなく、家族、自制、人格、伝道活動、そしてイエス・キリストに対する信仰について教え続けたこの預言者について、マッケイ大管長の跡を継いだジョセフ・フィールディング・スミス大管長は次のように言いました。「マッケイ大管長は霊的に偉大な力を持った人であり、生まれつきの指導者であり、聖徒たちから愛され、世の人々から尊敬された人でした。これからも永久に人々は立ち上がって、彼の名をたたえることでしょう。」²¹

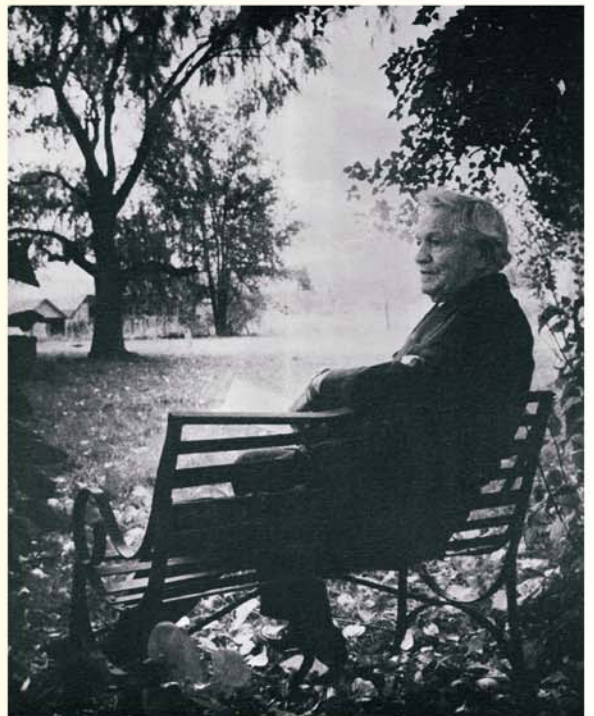
マッケイ大管長の第一副管長として仕えたヒュー・B・ブラウン長老は、マッケイ大管長の人生を次のように要約しています。「マッケイ大管長は、人間として可能なかぎり、キリストに近い生涯を送りました。人が心から求めてやまない答え、すなわち満ち足りた人生への答えは、利己心を捨て愛に生きることにあるという真理を見いだしていたのです。『わたしのために自分の命を失う者は、それを見いだすであろう』というキリストの逆説的な言葉が真実であることを証明したのです。マッケイ大管長はまさしく主の僕しもべでした。主の教えのとおり■に生きた人でした。」²²

ウェード・マードックは、ユタ州サウスジョーダンステーク、サウスジョーダン第3ワードの会員です。

注

1. 『歴代大管長の教え——デビッド・O・マッケイ』(2003年)、49で引用
2. 『歴代大管長の教え——デビッド・O・マッケイ』xivで引用
3. ジェネット・マッケイ・モレル、『歴代大管長の教え——デビッド・O・マッケイ』xivで引用
4. 『歴代大管長の教え——デビッド・O・マッケイ』29

5. 『歴代大管長の教え——デビッド・O・マッケイ』 xv参照
6. ルウェリン・R・マッケイ、*Home Memories of President David O. McKay* (1956年)、4
7. デビッド・ローレンス・マッケイ、*My Father, David O. McKay* (1989年)、18, 24
8. *My Father, David O. McKay*, 29参照
9. *My Father, David O. McKay*, 36参照
10. 『歴代大管長の教え——デビッド・O・マッケイ』 xx
11. 『歴代大管長の教え——デビッド・O・マッケイ』 149
12. 『歴代大管長の教え——デビッド・O・マッケイ』143で引用
13. 『歴代大管長の教え——デビッド・O・マッケイ』 153-154で引用
14. Conference Report, 1906年10月, 112
15. 『歴代大管長の教え——デビッド・O・マッケイ』 53で引用
16. フランシス・M・ギボズ、*David O. McKay : Apostle to the World, Prophet of God*, (1986年)272-273参照
17. 『歴代大管長の教え——デビッド・O・マッケイ』 xxvi
18. 『歴代大管長の教え——デビッド・O・マッケイ』 126
19. 『歴代大管長の教え——デビッド・O・マッケイ』103で引用
20. *My Father, David O. McKay*, 259-260参照
21. 『歴代大管長の教え——デビッド・O・マッケイ』 xxviii
22. “God Makes a Giant among Men,” *Church News*, 1970年1月24日付, 13



イエス・キリストの福音が 回復されたことを喜びとする

以下のメッセージから訪問先の姉妹たちの必要に合った聖句や教えを祈りの気持ちで選び、読んでください。自分の経験や証^{あかし}を伝え、あなたが教える人々も同様に分かち合うよう勤めてください。

ジョセフ・スミス歴史-1:18-19——「わたしの真上で光の中に立っておられた方々に、すべての教派のうちのどれが正しいか……を伺った。すると、それらのどれにも加わってはならない……とのお答えであった。」

福音の回復は、なぜそれほど輝かしい出来事なのでしょうか。

十二使徒定員会会長代理 ボイド・K・パッカー——「キリストが十字架でお亡くなりになった後、背教が起きました。指導者は『人の戒めを教義として教え』始め〔ジョセフ・スミス歴史-1:19〕、権能^{かき}の鍵を失い、啓示の道を自ら閉ざしました。失った権能を、簡単に取り戻すことはできません。かつて権能の鍵を持っていた者によって回復されなければならなかったのです。」「(『真理の標準は確立された』『リアホナ』2003年11月号, 24)

大管長 ゴードン・B・ヒンクレ——「数世紀の暗黒時代の苦痛と困難を経て、福音の回復の時が熟しました。……その栄光の日は1820年、一人の少年が熱意と信仰をもって森に入り、声を上げて祈〔った〕ときに幕を開けたのです。……

祈りは栄光の示現となってこたえ

られました。永遠の父なる神とよみがえられた主イエス・キリストが御姿^{みすがた}を現し、彼と語られたのです。こうして2,000年近くの間閉ざされていた幕が開かれ、時満ちる神権時代が始まりました。……

……人類史の壮大なドラマでのわたしたちの立場が分かりますか。今が過去のすべての出来事の焦点なのです。万物更新の時なのです。回復の時代なのです。」「(『時の流れの頂で』『リアホナ』2000年1月号, 88-89)

どうすれば福音の回復を喜びとすることができのでしょうか。

十二使徒定員会 ニール・A・マックスウェル (1926-2004年)——「わたしたちはすべての人にさらに大きな愛を示すことによって、栄えある完全な〔回復された福音〕への感謝を最もよく表すことができます。回復の業は、隣人とは一体だれのことなのかを教えてくれるからです。さらにイエスの属性を身に付けられるように努力を重ねることにより、感謝を示そうではありませんか。」「(『最初より』『聖徒の道』1994年1月号, 24参照)

十二使徒定員会 ロバート・D・ヘイルズ——「ジョセフ・スミスの模範と、福音が回復されたパターンに従うようお勧めします。……聖典を開いてください。ひざまずいて祈ってください。信仰をもって願い求めてください。

聖霊に耳を傾けてください。天の御父はジョセフを御存じだったと同じように皆さんの名前を知り、必要を知っておられるということを忘れないでください。堪え忍び、粘り強く福音に従って生活してください。」「(『回復されたイエス・キリストの福音の証を受ける』『リアホナ』2003年11月号, 31)

中央扶助協会会長 ボニー・D・パーキン——「福音の回復と肩を並べる奇跡はほとんどありません。実際に多くの奇跡が回復から生じているからです。わたしは姉妹宣教師と福音を教えたことがあります。そして彼女たちがジョセフ・スミスが率直に記した話を語るのを何度も聞きました。御霊^{みたま}はその度に回復が真実であることを証し、福音の回復が確かにすべてを変えることを教えてくれるのです。」■



失った愛……

取り戻すまでの苦闘

結婚生活を修復する鍵は、
救い主の視点から夫を見ることができるように
なることでした。

匿名

この世の尺度で言えば、恋に落ちるのは簡単なことです。ところが残念なことに、同じくらい簡単に恋から覚めることもあるのです。しかし、恋から覚めた場合、再び恋に落ちることは容易ではありません。同じ恋にもう一度落ちることはないからです。失った愛を取り戻すには、再び愛せるように努力しなければなりません。これは長くつらい旅です。しかしまた、非常に実り多い旅でもあります。わたしは経験からそれが分かります。

「天のお父様、どうしたらよいか分かりません。」夫とのことさら不快ないがみ合いの末、わたしは怒りに任せて家を出ました。11月の寒い日のことです。靴も履かず、コートも羽織っていませんでした。頭に血が上っていたため、そんなことには気づかなかったのです。肉体的な虐待はなかったものの、わたしたち夫婦は四六時中けんかしていると言ってもいいほどでした。少なくとも夫が家にいれば、間違いなくけんかになりました。とはいっても、夫が家にいることはあまり多くはありませんでした。夜遅くまで職場にいることが多く、仕事のないときはゴルフ場にいたからです。夫を責めることはできません。家庭での夫は、あまりにも惨めでした。それはわたしも同じです。寒い中、薄手のTシャツにジーンズと

いう格好で自分の惨めな境遇を天の御父に訴えたのには、こんな事情があったのです。祈っていて分かったのは、もう夫を愛してはいないということでした。特に好きだという感情すら持ち合わせていませんでした。

二つの道があるように思えました。家を出て離婚するか、家を出ずに惨めな生活を送ることです。どちらの道も気が進みませんでした。家を出れば結婚生活は終わりを告げますから、永遠の家族への希望は捨てざるを得ません。そんな決断をすれば、子供たちは不幸な境遇に追いやられてしまいます。両親のそろわない家庭で子供時代を送ることになるのです。

一方家に残ったとしても、結婚生活が破綻しているという事実は変わらないのです。永遠の家族を築くことなどできません。わたしたち夫婦は日の栄えに向かう道を歩んではいけないのですから。これでは子供にひどく不幸な生活を強いることになってしまいます。子供の両親はお互いのことが嫌いで、目が合えば必ず相手を傷つけずにはいられないという有様だったからです。

「天のお父様、どちらも良い方法ではありません。どうしたらよいか教えてください。」わたしは祈りました。

そのときです。別のアイデアが浮かびました。正しい選択は、わたしが目を背けていた方法でした。家に残って夫のマーク(仮名)を愛し、幸せになるというものです。先の二つに比べると、はるかにいい方法のように思えました。どうしたらそんなことができるのか見当もつきませんでした。幸せな家族を取り戻したいという思いは、家に戻るだけの力を与えてくれました。



その後2,3週間、マークともう一度恋に落ちることができるよう努力しましたが、いらいらするばかりでした。精いっぱい努力も、すべて裏目に出ているように思えました。優しくしようと努めたのです。でも、手間ひまかけて夫の喜ぶ夕食を用意して待っていた夜、夫は遅く帰って来ました。そっと愛を示そうとしたときも、気づいてはくれませんでした。不満はさらに募りました。こんなに努力したのに、期待していた劇的な変化を夫が見せることはなかったからです。3週間もすると、やめてしまおうという気持ちで頂点に達していました。

もう一度天の御父に祈りました。恥ずかしいことですが、あまり謙遜な祈りではありませんでした。「うまくいきません」と報告した後で、こう言ったのです。「マークは最低な人です。少しも手を貸そうとしてくれないのに、どうして

彼を愛せるのでしょうか。努力のかいもありませんでした。」

そしてこう尋ねました。「助けていただけないのでしょうか。もう少し夫を優しい人間にして、夫の欠点を直していただけないのでしょうか。」

すると次の瞬間、強く心に感じるものがありました。「あなた自身を直しなさい。」

「わたしが悪いものではありません。」心の中で答えました。確信があったからです。わたしはマークの目に余る欠点を挙げ始めました。確かに、これこそがわたしの問題だったのです。

困惑していたわたしの心に、「あなた自身を直しなさい」という思いが再び訪れました。

「分かりました。」今度はもっと謙遜になっていました。「そうします。でも、どうしてよいか分かりません。どうか導いてください。何をしたらよいか教えてください。」

——▲ つの道があるように
——▲ 思えました。
家を出て離婚するか、家を出ずに惨めな生活を送る事です。
どちらの道も気が進みませんでした。
そのとき主は、第3の道を用意してくださいました。

毎日、祈る度に主に導きを求めました。ひざまずいて長い祈りを何度もささげ、主の導きをどれほど求めているか訴えました。助けが必要だということを主に知っていただくよう努めたのです。しかし、何の答えもないように思えました。

靈感あふれる答えは、福音の教義クラスの教師を通して与えられました。そのクラスでわたしたちは、モロナイ書第7章の47節と48節を読みました。「しかし、この慈愛はキリストの純粋な愛であ[る]。……したがって、わたしの愛する同胞よ、あなたがたは、御父が御子イエス・キリストに真に従う者すべてに授けられたこの愛で満たされるように、また神の子となるように、熱意を込めて御父に祈りなさい。」

慈愛とは何か話し合いました。慈愛とは、イエス・キリストがわたしたち一人一人に対して持っておられる愛のことです。わたしは、救い主がわたしたち一人一人の長所を御存じであることを知りました。主は、すべての人の中に愛すべき価値を見いだされるのです。

教師はもう一度聖句に目を向けるように言いました。「48節では、慈愛とは御父から皆さんに与えられる賜物だと言っています。慈愛は皆さんが努力して身に付けてゆくものではありません。与えられるものなのです。ですから、不愉快な隣人や嫌な人がいる場合、何が問題なのでしょうか。問題は、そのような人に対して皆さんが慈愛、つまりキリストの純粋な愛を持っていないということです。では、どうすれば慈愛を持てるようになるのでしょうか。それは『熱意を込めて御父に祈り』、その人に対する慈愛を与えてくださるよう、お願いすればよいのです。救い主の視点から見ることができるようになって、その人が愛すべき立派な人物であることが分かるよう、祈り求めるのです。」

これが答えでした。救い主の視点からマークを見ることができれば、必ず彼を愛するようになるのです。簡単なことのように思えました。それまでの努力に比べれば、はるかに容易なことでした。慈愛を祈り求めさえすれば、神はそれを与えてくださり、問題は解決するのです。しかし、その前にある小さなことを天の御父から求められるとは、そのときは分かりませんでした。

その晩、わたしはひざまずいて、夫に対して慈愛を抱けるよう祈り求めました。イエス・キリストがマークに対して持っておられる愛をひとかけらでも感じられるよう祈りました。その愛があれば、主の目には見える夫の長所がわたしにも見える



救い主の視点から
マークを見ることが
できれば、必ず彼を
愛するようになるのです。
簡単なことのように
思えました。
しかし、その前にある
小さなことを天の御父から
求められるとは、そのときは
分かりませんでした。
同じ恋にもう一度落ちる
ことはないのです。
失った愛を取り戻すには、
再び愛せるように
努力しなければなりません。

ようになるからです。すると、わたしにはすでに夫の良いところが分かっているはずだから、それを挙げなさいという非常に強い思いがわき上がってきました。ずっと考えました。わたしは夫の長所に長い間目を向けていなかったのです。考えた末に、「今日は機嫌がよさそうでした」と答えました。ほかにも挙げるよう促されるのを感じて、「頼めばごみを出してくれます」と答えると、さらに促され、「働き者です」「子供たちに優しくしてくれます」と答えました。でも次に促されたときには、もう何も思い浮かびませんでした。

次の晩、床に入る前に慈愛を求めて祈ると、またマークの長所を挙げるよう促されました。大変でした。良い面に目を向けることには慣れていなかったのです。夫に欠点を改めさせるため、あら探しばかりしていました。

しばらくすると、毎晩夫の長所を挙げることに気づき、夫に関心を向けて一日を過ごせば、長所を挙げることは断然容易になるだろうと思いました。翌日は夫をよく観察していたおかげで、10の長所を挙げることができました。新記録です！これは目標になりました。寝る前に10の長所を挙げることです。夫とうまくいった日はいいのですが、そうでない日は大変でした。最後の3つなどは、「髪型が良かった」とか「今日のジーンズはすてきだった」などといったたぐいの長所しか挙げることができません。いずれにせよ、これを毎晩行いました。

それから夫の欠点に目が行く度に、10の長所を挙げることにしました。これなら欠点ばかりに目が行くことはありません。

少しずつですが、すばらしいことが起きるようになりました。まず、マークは最低な人などではないということが分かりました。わたしが見落としていたり、忘れていたりしただけで、数多くのすばらしい特質を持っていたのです。第2に、わたしががみがみ言うのをやめてから、マークは長い間わたしが指摘してきた悪い習慣の多くを改め始めました。夫の行動を修正する責任は自分にあると考えるのをやめた瞬間、夫がその責任を引き受けたのです。マークと過ごす時間が楽しくなっていました。そして何よりも、マークは長い時間働くのをやめてくれました。

こうして夫婦の関係は修復されていきました。しかしまだ問題が一つ残っていました。マークを愛していなかったのです。愛情がありませんでした。一体感を請い求めました。一心同体だと感じたかったのです。マークのことを毎日祈るように

なって5か月がたち、マークに対してキリストが持っておられる愛を感じられるよう求めてきました。そして夫を愛せるようにとの祈りには、ますます力がこもるようになりました。「夫との関係が良くなってきたことに満足しています。家族のきずなはこれまでにないほど強くなりました。これ以上望めないのであれば、それで結構です。ただ、ほんの少しでもマークを愛することができさえすれば、こんなにすばらしい祝福はありません。」

その祝福が授けられたときのことは鮮明に覚えています。ある晩わたしたちは実家でゲームをしていました。テーブルを挟んでマークを見ていたわたしは、突然、何の前触れもなく、それまで感じたことのないような力強く非常にいきいきとした強烈な愛を感じたのです。まるで雷に打たれたかのようなものでした。目からは涙があふれ、その愛の強さに圧倒されました。テーブルの向

こうに座っているのは、わたしの永遠の伴侶^{ほんりよ}でした。言葉に尽くせないほど愛する人です。彼の持つ価値は計り知れません。こんなことに気がつかなかったとは、信じられませんでした。救い主がわたしの愛するマークに対して持っている愛が、少し分かったような気がしました。すばらしい愛です。

その特別な晩から数年たちます。思い出すと、今でも涙が出てきます。こんな経験ができたのに、それをみすみす捨てようとしていたのかと思うと恐ろしくなります。

夫との関係は、今では非常に良くなりました。完全ではないにしても、はるかに良い関係です。この愛を二度と手放すまいと思っています。マークへの愛をはぐくむ努力は意識して毎日行っています。自分自身を直せるよう助けてくださった、愛にあふれる忍耐強い天の御父に深く感謝しています。■





家族を強める

男性と女性は 神の形に創造された

このシリーズは、「家族——世界への宣言」の
個人的な学習と活用へのヒントを与えるものです。

「すべての人は、男性も女性も、神の形に創造されています。人は皆、天の両親から愛されている霊の息子、娘です。したがって、人は皆、神の属性と神聖な行く末とを受け継いでいます。そして性別は、人の前世、現世および永遠の状態と目的にとって必須の特性なのです。」¹

初めに

主は次のように宣言されました。「人もまた初めに神とともにいた。英知すなわち真理の光は、創造されることも、作られることもなく、実にそうすることのできないものである。」（教義と聖約93：29）

わたしたちがどのような過程によって神の



霊の子供となったのかは、ほとんど明らかにされていません。しかしわたしたちは、天の両親がわたしたちのために霊の体を組織し、そこに英知、すなわち真理と光を宿らせられたことを理解しています。この英知は、「神がそれを置かれた領域において独立し、それ自体で作用する」のです（教義と聖約93：30）。ですから、選択の自由（英知ある存在が自己責任の下に二つの道から一つを選ぶ能力と自由）は永遠の原則なのです。

神の子孫

多くの宗教が人間は神の子供であると教えていますが、神への考え方となると、親子関係に似たきずなについては一切否定していま



**人間は神の子孫
ではないという
考え以上に
家族を破滅に追いやるもの
はありません。**

す。預言者ジョセフ・スミスは、神と人間はもっと簡潔で密接な関係にあるということ、次のように教えました。「神御自身、かつては今のわたしたちのようであり、今は昇栄された人となり、かなたの天の王座に座っておられます。これは大いなる奥義です。もし、幕が今日裂けたなら、そしてこの宇宙を軌道に保〔つ〕ておられる大いなる神が御自身を現されたなら……神が人の形であられること、姿形、有様がすべて人間のようであることを知るでしょう。なぜなら、アダムは神に似せてまさにその姿形に創造され、教えを受け、人が人と語り、交わるように、神とともに歩み、語り、言葉を交わしたからです。」²

わたしたちは神の家族です。そして天の両親の形に創造された息子、娘です。十二使徒定員会会長代理のボイド・K・パッカー長老はこう語ります。「わたしたちは神の子供であり、ほかの生物とは異なった存在として創造されました（モーセ6：8-10, 22, 59参照）。この天から与えられた真理以上に偉大な知識が啓示されたことはありません。人間は神の子孫ではなく進化した動物にすぎず、あらゆる肉欲に従う者であるという考え以上に人の幸福を破壊し、悲しみと失意、害をもたらし、家族を破滅に追いやるものはありません。」³

性別は永遠で必須の特性

十二使徒定員会のリチャード・G・スコット長老は、神の息子、娘としてのわたしたちの創造は「あなたが天の御父のみもとで生活していた前世で霊的に行われました。地上に来る前にあなたの性別は決まっていた」⁴と教えています。

性別は永遠にわたしたちの一部であり、永遠の進歩に不可欠なものです。パッカー会長代理は次のように説明しています。「幸福の計画では男性と女性、夫と妻の義になかった結びつきが必要です。……神の姿形に似せて造られた体がアダムに与えられ、アダムは園に案内されました。最初、アダムは独りでした。……〔しかし〕独りでは、造られた目的を遂げることができません。だれにもできなかつたのです。独りでも、ほかの男性と一緒にでも、アダムは進歩できなかつたのです。エバがほかの女性とともにいても同様でした。それは昔も今も変わりません。エバが助け手として造られ、そこで結婚が定められ〔たのです。〕」⁵

選択の自由と同性に引かれる力

性に関する混乱が今日あちこちに広がっており、中には同性に引かれる男性や女性もいます。そのような感情は、神の戒めに従順であることを望む人々にとって非常に難しい試練です。十二使徒定員会のダリン・H・オクス長老はこの問題について次のように述べています。「〔サタンは〕個人が自らの行動に責任を持たなければならないという原則をゆがめ、生殖という神聖な力を乱用するように誘惑し、ふさわしい男女に結婚し子供をもうけることを思いとどまらせ、男性であり女性であることの意味を混乱させようと躍起になってい〔ます。〕……生まれつき備わっている感情もあれば、この世での経験に起因する感情もあります。さらに、『生まれと育ち』とが複雑に絡み合っただけで生じる感情もあります。だれにでも自分で選んだのではない感情が存在します。しかし、イエス・キリストの福音は、不適切な思いを抱かせたり、罪深い行動を取らせたりする感情に抵抗し、(必要に応じて)そのような感情を矯正していく力がわたしたちにはあると教えています。」⁶

この世における試練は簡単なものではありませんし、簡単に克服できるように意図されたものでもありません。しかしながら、たとえどのようなことで苦闘していても、わたしたちは神の教義の中に、またあがな聖なる御霊に、助けや慰めを求めることができるのです。

自分は神の息子、娘であり、神によって御自身の形に創造されたこと、神の計画によって永遠の命への備えができるということ、わたしたちは心に留めておくことができます。もし神の戒めに従うならば、神は御自身が約束されたあらゆる祝福を、惜しみなく与えてくださることでしよう。■

自分は神の息子、娘であり、神によって御自身の形に創造されたこと、神の計画によって永遠の命への備えができるということ、わたしたちは心に留めておくことができます。もし神の戒めに従うならば、神は御自身が約束されたあらゆる祝福を、惜しみなく与えてくださることでしよう。■

注

1. 「家族——世界への宣言」『リアホナ』2004年10月号, 49
2. *History of the Church*, 第6巻, 305
3. 「現代の道徳的環境」『聖徒の道』1992年7月号, 71参照
4. 「偉大な幸福の計画を実践する」『聖徒の道』1997年1月号, 84参照
5. 「この世から永遠にわたって」『聖徒の道』1994年1月号, 25
6. 「同性への誘惑」『聖徒の道』1996年3月号, 15, 17参照

ベネズエラの 勇敢な者たち

この若人たちは、
ほんとうの意味で
「証人」となっています。

マービン・K・ガードナー
教会機関誌

ルビーのネックレス その日も
普段とまったく同じように始まり
ました。ところが、いつものよう
に高校へ通う道の途中で、突然、事件が起きた
のです。ルビーは最初、自分の身に何が起
こったのか分かりませんでした。だれかが人
込みから出て来て、ルビーの若い女性の
ネックレスをつかみ、首から引きちぎり、
雑踏の中に消えて行ったのです。

ルビーは恐怖で震えました。どうして、プライバシーが侵
害され、大切にしていたものが奪われなければならないので
しょうか。でも、どろぼうはルビーのネックレスを奪いまし
たが、それよりもはるかに大切なもの、つまりそのネックレ
スが表している標準と価値観を奪うことはできませんでし
た。その事件からしばらくして、ルビーは若い女性のネック
レスを改めて買いました。「わたしはいつもこれを身につけ
ています。だれかにまた盗まれたとしても、……また買えば
いいんです。」ルビーはそう言っています。

ジミーの拒絶 ある晩、ジミーは友人たちとパーティーに行
きました。そのときのことをジミーはこう語ります。「一人



の女の子が近づいて来て、アルコール飲
料を差し出しました。ぼくは『けっこう
です』と言って、その子に関心を示さず
にいました。ところが、彼女はしきりに勧
めるのです。しかも、アルコールだけでは
ありません。それ以外のことも誘ってき
たのです。ぼくはすべて拒否しました。そ
して、そのグループから離れたのです。仲間
の中には、つきあいが悪いぞと言う人も
いました。でも、ぼくは、そこにいるわけ
にはいかないことが分かっていました。こ
のような試練に遭う度に、そしてそれを克服
する度に、ぼくは強くなっていきます。」

ルビー・コルネホは17歳、ジミー・フローレスも17歳で、ど
ちらもカラカスに住んでいます。ベネズエラには、この二人の
ほかにも多くの勇敢な末日聖徒の青少年がいます。彼らは問
題の多い世の中であって「いつでも、どのようなことについ
ても、どのような所においても……神の証人にな[る]」方法を探
しています(モーサヤ18:9)。

標準を維持する

「ぼくたち、学校でもけっこう大変なチャレンジがあるんで
すよ。」そう言うのは、カラカスに住む17歳のダビド・ハビエ
ル・フランコです。「でも、エジプトに売られたヨセフのよう
になるように教えられています。ヨセフは悪いことから遠ざ
かっていました。ポテパルの妻が正しくないことをさせようと
誘惑したときも、ヨセフはその場から出て行きました。彼女

から逃げて行ったのです。ほくたちもヨセフと同じような強さを持つことができます。」

強さを維持するために、祈ったり、聖文を学習したりすることは、決して新しい教えでも、この地域独特の教えでもありませんが、効果があります。「わたしの住んでいる所には、教会員はわたししかいません。」そう語るのは、バルセロナに住む15歳のファティマ・モウティンオです。「それに、日曜日ごとにパーティーがあって、アルコールがたくさん出るんです。教会に行くのを妨げようとする大きな誘惑があります。でも、福音に助けられて、これまで忠実に信仰を守り通すことができました。心配事があるときや誘惑に遭ったときは、いつも最初に、祈って聖文を読みます。」

アロン神権の『神への務め』と若い女性の

『成長するわたし』のプログラムも、標準を維持するためには欠くことのできないものです。「指導者は、ただ単に目標を設定させるだけでなく、目標を達成して、進歩を続け、決して前進をやめないように教えてくれました。」ファティマはそう語ります。「ですから、わたしたちは毎日進歩できるよう努力しています。」

標準を守るには勇気が必要です。カラカスに住む17歳のノリア・レイエスの言葉を聞いてみましょう。「標準を守り通す度に、自分について何かを発見するんです。自分には『ノー』って言える勇気もあるし、正しくないことを拒む勇気もあるんだわって。『すごい。わたしってその気になればできるんだ』って思うんです。そういうことで喜びを感じます。」

ジミー・フローレス
とルビー・コルネホ
(左ページ)。
カラカスにあるバルケ・
デル・エステ(東公園)で
青少年たちとともに(下)。
後列——アドリアナ・
アングロ、マリエラ・
ルイス、ルシアーノ・
フェルナンデス、
ルビー・コルネホ、
エンリケ・ロベス、
ノリア・レイエス。
前列——ジミー・
フローレス、ダビド・
ハビエル・フランコ、
ヘラルド・ホセ・ロベス。



カリブ海を見下ろす
昔の要塞の跡地で、
バルセロナと
フェルトラクスから
集まった青少年は、
堅固な土台の上に
証を築くことについて
話し合っている。
左から、エベルト・
シフォンテス、
イングリズ・ロドリゲス、
ファティマ・モウティンオ、
ダニエラ・マカダン、
エドゥアル・ホセ・シルバ、
ヨシ・コントレラス、
サビエル・カリアス。

模範になる

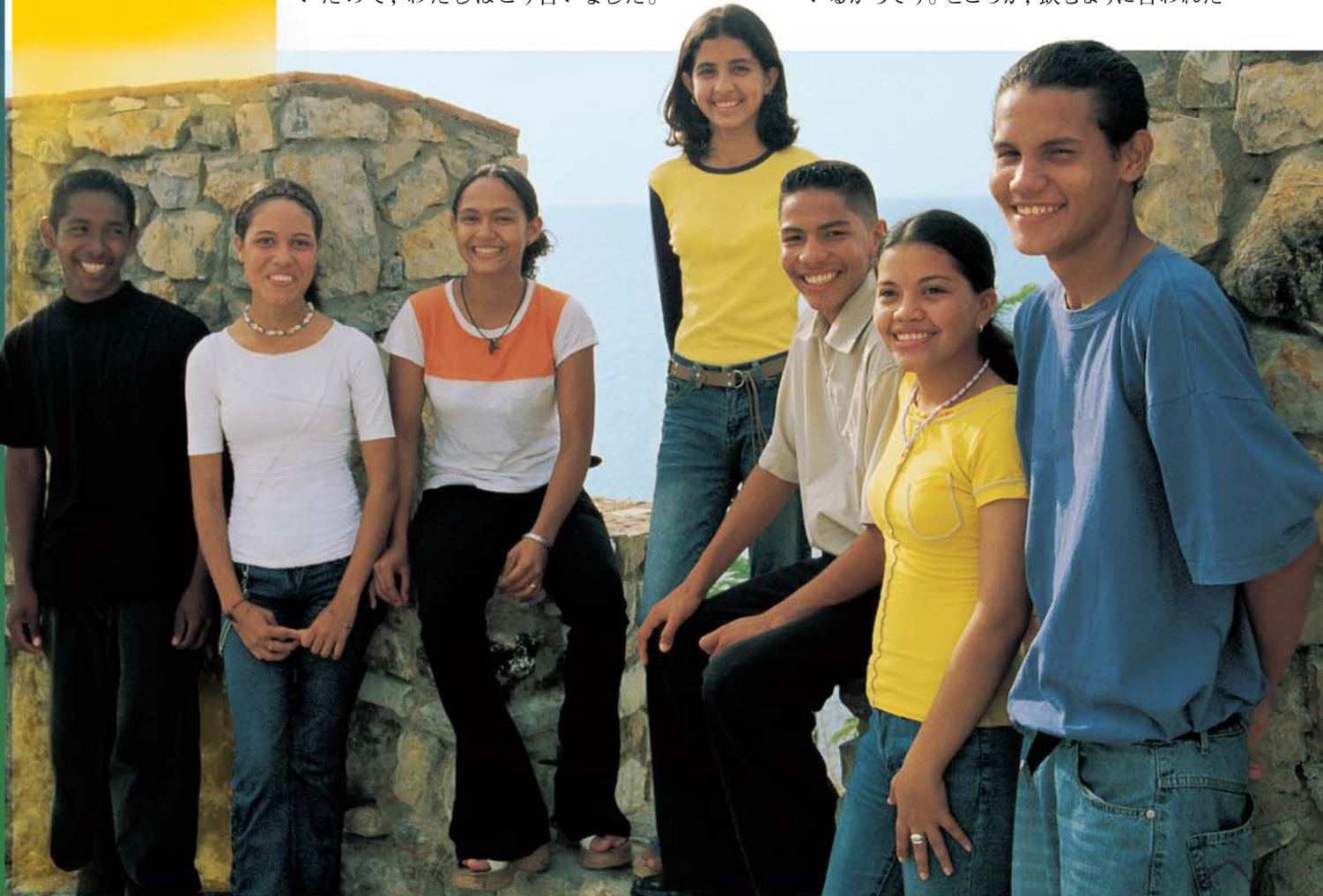
学校に自分しか教員がいないとき、同じ価値観を持つ友人を見つけることが難しい場合もあります。でも、できないことはありません。ほかの人たちがあなたの模範に従うことだってあるのです。

「ぼくは朝7時から夕方4時まで、クラスメートと一緒に過ごします。」そう語るカラカスに住む16歳のルシアーノ・フェルナンデスの言葉に耳を傾けてみましょう。「仲間のほとんどはタバコを吸うし、大騒ぎもします。アルコールも飲むし、汚い言葉も使います。彼らの知り合いの中で正しい模範を示せるのは、ぼくしかいないんです。これは大きい責任です。仲間の大部分は、ぼくのことを信頼できる人間だと考えています。」

次はノレリアの言葉です。「あるとき、友人たちがどこかへタバコを吸いに行こうとしていたので、わたしはこう言いました。

『ねえ、わたしの宗教が何だか、覚えているでしょう。わたしはそういうことはしないのよ。』中には、タバコを吸うのは良くない習慣だということを理解して、やめようとしている人もいます。そういう友人たちはわたしのことを『完璧娘』って呼んで、いつもアドバイスを求めています。わたしは『完璧なんかじゃないけれど、教会の標準に従おうと努力しているだけよ』と伝えていきます。みんなはわたしの信仰を大切にしてくれますし、わたしは少しは種をまくことができたと思っています。その種が、いつかみんなにとって強さの源になってくれるかもしれないと考えています。」

カラカスに住む17歳のエンリケ・ロベスと4人の友人は、学校の休み時間に、友人の家へ行きました。「だれかがビールを出してきたんです。ぼくは、決して飲むように誘われることはないと思っていました。みんな、ぼくの宗教を知っているからです。ところが、飲むように言われた



んです。ぼくはこう言いました。『いや、ぼくはそういうものは飲まないんだ。』すると、友人たちは一斉にぼくの批判を始めました。飲酒はまったく悪いことではないし、少しなら全然害にならないと言いだめたのです。でも、たとえ少しでも、結局は害になります。ぼくは断りました。しばらくすると、友人たちは『ああ、こんなことって時間の無駄だよな』と言って、飲むのをやめました。そして、一緒に授業に戻ったのです。友人たちはぼくの考えを尊重してくれたのだと思います。』

青少年の中には、特に家庭の中で模範を示すことが大切だと感じている人たちもいます。次はマラカイボに住む17歳のジャクリーン・ガルシアの言葉です。「父はまだ教会員ではないのですが、いつか改宗してくれるという希望を失ったことはありません。そうなれば、家族で神殿に行き、結び固めを受けることができます。いつもそのために祈り、断食だんじきをしています。わたしの信仰や忍耐力や模範が父の助けになってくれることを願っています。」

賢く友人を選ぶ

ベネズエラの若い男性と若い女性は、友人とは何かについて学んでいます。「悪いことに誘う人たちは、ほんとうの友人ではありません。」そう言っているのはダビドです。「普通、そういう人たちは、悪いことでもそれほど悪くはないんだと、ぼくたちに思い込ませようとします。でも、実際には悪いことはほんとうに悪いのです。聖文では、キリストを確固として信じるならば、主はぼくたちを導き、何をしたらよいかを教えてくださいと書いてあります。」(2ニーファイ31:20参照)

大部分の人が、いちばんの友人は熱心な教会員だと感じています。多くのワードや支部で、火曜日から木曜日までの週3回、午後6時半から7時半までの間、セミナーが開かれています。時々、ミュチュアルが金曜日に開かれ、若い男性と若い女性が合同でダンスやパーティーなどをすることもあります。土曜日には、レクリエーション活動や奉仕活動をよくします。日曜日にはもちろん、教会の集会があります。青少年の中には、毎週、専任宣教師と一緒に働いたり、新会員にレッスンを教える手助けをしたりする人もいます。さらに、神殿参入やユースカンファレンス、日曜日の夕べのデイボーショナルが時々あります。

「教会に行けば、友人に会えます。」そう話すのはジミーで



母親を連れ戻す

「神には、なんでもできないことはありません」という聖句は真実でしょうか(ルカ1:37)。マラカイボに住む16歳のホセ・ハビエル・アラルコンは、この聖句の約束を実証した人物です。

「両親が離婚したのは、ぼくが8歳か9歳のときでした。その後、一人の友人がぼくを教会に招いてくれ、やがてぼくはバプテスマを受けたいと思うようになりました。でも母は、以前にバプテスマを受けたものの長年教会に行っていなかったで、ぼくのバプテスマを許可してくれませんでした。ぼくが12歳になったとき、母はとうとうバプテスマを許してくれました。福音の中で成長するうちに、ぼくは母にも教会に戻って来てほしいと祈るようになりました。そして、それから2年後、母は実際に戻って来てくれたのです!」

ホセ・ハビエルの母、ミリアムは、8年間教会から離れていたこと、そして「戻る気など全然なかった」ことを認めています。「でも、息子がわたしについて強い信仰をもって祈るようになったとき、……心の中に何かが起こり始めたのです。祈りたい、聖文を読みたいという強い望みを感じ始めました。ある晩、主がわたしの心を変えてくださいました。その夜以来、わたしは完全に変わりました。みんな息子のおかげです。こんなに素晴らしい息子を授けてくださったことをお父様に感謝しています!」

「これは神様からの贈り物なんです。」ホセ・ハビエルはそう言っています。「ぼくも少し手伝いましたが、こんなことが皆起きたのは、ほんとうに神様のおかげなんです。」

ホセ・ハビエルも、母親も、10歳の弟イエス・ダビドも、みんな神殿に行きました。ハビエルは死者のための身代わりのバプテスマを受けました。母親は自分自身のエンダウメントを受けました。





500人の クラスメートの前で

16歳のグラディス・ゲレーロは、マラカイボにある軍人を養成する高校に籍を置きただ一人の末日聖徒でした。学校が始まった最初の週に、グラディスは全校生徒500人の前に立って、なぜコーヒーを飲まないのかを説明する

ことになりました。グラディスの生き方をばかにする生徒が多くいる一方、彼女に注目し始める生徒もいました。「わたしが決してしないこと、例えば、アルコールを飲まないことや、ある種のパーティーに行かないことですが、わたしがそれを買っているのを見ていて、福音に興味を持ち始めた人がいたんです。ある日、宣教師が学校の前を通りかかったので、呼び止めて、友人を何人が宣教師に紹介しました。宣教師には福音を教える約束がたくさんできました。」その結果、それから数か月の間に、グラディスのクラスメートのうち10人がバプテスマを受けました。

す。「教義について勉強できるし、友人と一緒にいられるし、新しい友人もできます。みんな同じ原則を信じているんです。」

フェローシップをする

新しい友人の中には、実際には昔からの友人で、最近再び教会に熱心になった人たちも含まれます。マラカイボに住む15歳のアナンハリス・ゴリンダーノの話聞いてみましょう。「わたしたちはよく、あまり教会に来ていない青少年を訪問するんです。一つの区域を3、4人で担当して訪問し、あまり熱心でない会員に、教会で会えなくて寂しいと伝えます。呼びかけにこたえて、戻って来てくれた人も何人かいますよ。ワードのセミナリークラスには、以前は14人の生徒しかいなかったのですが、今では20人になっています。」

マラカイボに住む15歳のホスエ・ディアスによれば、彼のワードにも同じような成果が表れているとのこと。「去年は、二つのワードを合わせても、セミナリーの生徒は9人しかいませんでした。ほくたちは断食をして、教会に来ていない会員を訪問しました。その結果、クラスが二つに分かれるほどになりました。今、一つのワードには16人、もう一つのワードには15人の生徒がいます！」

ほかにも成功したプロジェクトがあります。水曜日の夕方に、あまり教会に来ていない青少年の家に家庭の夕べを配達するという活動です。ジャクリーンはこう言っています。「中には親が会員でない人たちもいます。実際、そういう青少年には、家族の中で一人だけ教会員という例が多くあります。でも、普通は、そういう家の両親もわたしたちを家に入れてくれます。逆に、子供たちの方がわたしたちを見て驚くことがあるくらいです。でも、わたしたちが関心を持っているんだということは分かってくれますよ。一人がレッスンをします。そして自由に質問や話し合いができる雰囲気をもん

なで作るんです。ほんとうに御霊を感じる事ができますよ。普通は、教会外のいろいろなことがあって、それが原因で教会に戻れないんです。でも、訪問するとほとんどの子が喜んでくれますし、まだ証もあると言ってくれるんです。」

しかし、友情を伝えるためには、それが真心からのものでなければなりません。ジャクリーンの言葉です。「時々、わたしたちの姿を見ると、あまり熱心でない青少年の中には、隠れようとする人もいます。いつも教会のことばかり話しに来ると思っているのでしょうか。でも、わたしたちはそういう人たちの生活にも注意を払うように心がけていて、ほかのことも話すようにしています。純粋に関心を持っていて、友人になりたいと思っていることを分かってもらいたいのです。」

ダビドは、ある親友の生活に奇跡が起こるのを目にしました。「ほくが新会員だったころにいちばん助けてくれた友人が、教会に来なくなったんです。でも、主はほくを祝福してくださって、再度、彼に会って話をすることができました。ほくは、彼にどれほど助けられたか細かく話しました。そして、そのお返しをしたいと言ったんです。ほくは彼の助けになろうと努力しました。今では、彼も活発に教会に集うようになって、同じ祭司定員会で頑張っています。」

神殿に参入する

ベネズエラ・カラカス神殿が建設されるまでは、ベネズエラの10代の若者の多くが、神殿参入のために長距離の旅をしていました。今なお、カラカスまで出るために長旅をしなければならない人もいます。例えば、バルセロナからプエルトラクルスまでは、バスで約6時間かかります。また、マラカイボからは、バスで10時間かかります。時には、青少年とその指導者は、夜中に出発して翌朝早くに神殿に到着します。そして、神殿での奉仕を終えると、再びバスに乗り込んで、その晩遅く自宅に戻ります。

青少年の中には、自分の先祖のためにバプテスマを受けた人が大勢います。マラカイボに住む14歳のグスタボ・メディナはこう言っています。「この前、神殿に行ったとき、ほくは二人の祖父と曾祖父とほかの人たちのためにバプテスマを受けました！」

家庭の事情で、家族の結び固めを受けられずにいる青少年もいますが、それでも、できることはすべて行って、神殿の祝福を受けています。アナンハリスはこう言っています。「わたしはまだ、母や兄弟たちと、神殿で結び固めを受けていません。両親が離婚しているからです。でも、2年前に、親族の8人の亡くなった女性のためにバプテスマを受けました。そして、

将来は夫となる人と結び固められる日を楽しみにしています。」

プエルトラクルスに住む15歳のイングリズ・ロドリゲスは、両親と結び固められた日に感じた気持ちをよく覚えています。「すごく泣きました。涙を抑えられませんでした。『わたしたちは永遠に結び固められたのだから、これからは両親を支えていこう』と自分に言い聞かせました。」

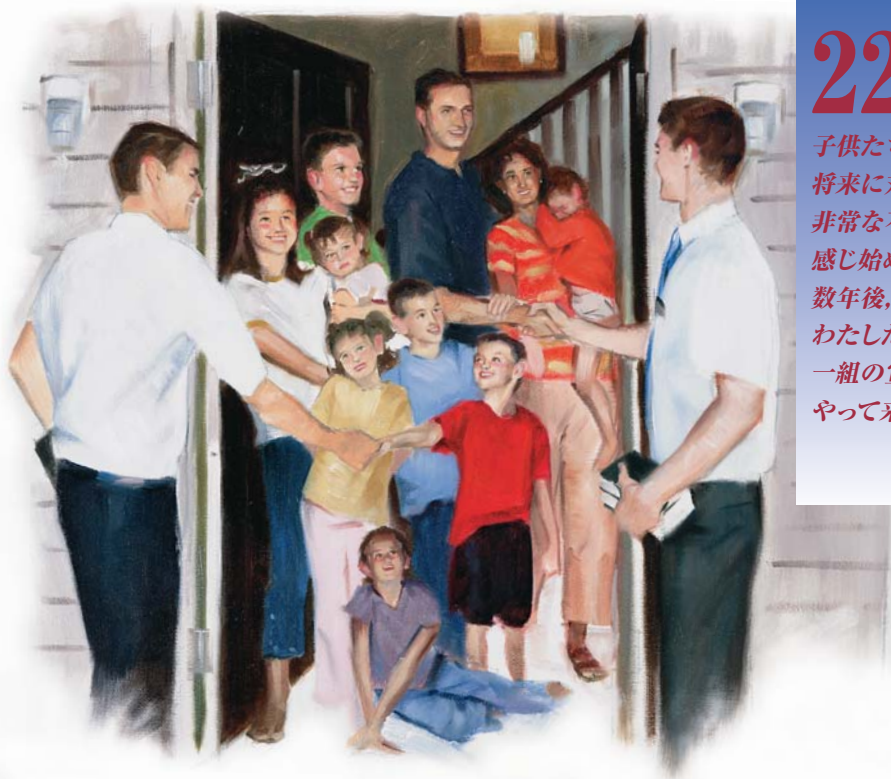
同じように、モウティンオ家が結び固められたとき、ファティマと彼女の家族は喜びをかみしめました。ファティマの言葉です。「神殿の鏡に映る自分たちの姿を見ました。そして、この鏡みたいに永遠に一緒よって約束し合ったんです。どんなことが起ころうとも、互いに支え合うつもりです。」

あかし
証を述べる

「教会員であることに感謝しています。」そう語るルビーは、新しく入手した若い女性のネックレスを誇らしげに身に着けています。「若いわたしたちには、たくさんの誘惑があります。教会員でなかったら、たぶん、友人たちが犯しているような過ちを、たくさん犯していただろうと思います。だれ一人として完全な人はいません。でも、イエス・キリストが罪をその身に引き受けてくださったので、わたしたちは悔い改めることができるのです。その賜物^{たまもの}を、ほんとうに感謝しなければならぬと思います。」■

マラカイボで
証人として立つ。
左から、グスタボ・
メディナ、ホセ・ハビエル・
アラルゴン、
グラディス・ゲレーロ、
ジャクリーン・ガルシア、
アナンヘリス・
ゴリンダーノ、
ホスエ・ディアス。





22年ほど前のある日、わたしは子供たちの将来に対して非常な不安を感じ始めました。数年後、わたしたちの家に一組の宣教師がやって来ました。

の母親と一緒に住んでいました)とともに福音のメッセージを聞き始め、教会に出席し、教会員や彼らの信条についてよく知るようになりました。数か月後、わたしたちは教会に加わるという賢明な決断を下し、それから17年が過ぎ去り今日に至っています。

もし子供たちに正しい道を教えたいなら自分の生活を変えなければならないことは分かっていました。例

えば、もしわたしが知恵の言葉を守り清い生活を送っていなければ、これらの戒めを彼らに教えることはできませんでした。福音の教えに従うように努めることによって、わたしは自分の生活を変え、子供たちに教えることができました。また最初の結婚でもうけた3人の子供たちにバプテスマを施し、彼らをこの世から連れ戻すことができました。今は8人の子供たち全員が教会に所属しています。4人は伝道に出ました。1人は年齢がいきすぎているので伝道には出られませんが、ステーキ伝道部長として働きました。6人が結婚していて、その全員が神殿結婚です。

1999年の初め、フロリダ州南部で地区大会がありました。大会通訳用のイヤホン配るといって割り当てを果たした後、わたしは何千人もの教会員が座っているホールに入りました。そのままホール後部に立っていると、息子の一人が赤ん坊と一緒にいるのが見えました。別の方向に目をやると、別の息子が妻子と一緒にいるのが見えました。

その瞬間、わたしは素晴らしい喜びを感じ、涙があふれ出るのを止めることができませんでした。わたしは子供たちの将来についてとても心配していた、あのつらい日々を思い出しました。もはやそのような心配はなく、今わた

彼らの将来が心配でした

アダルベルト・S・サンチェス

わたしは多くの男性が喫煙や飲酒を行い、みだらな生活を送っている環境で育ちました。自分自身の家族や周囲のほとんどの男性がこのような行いをしているのを見ていたので、それが普通であると信じるようになりました。わたしは20歳の若さで結婚し、4年後、3人の子供をもうけた後に離婚しました。しかし後にすばらしい女性と出会い、彼女は3人の子供のいるわたしを受け入れてくれただけでなく、さらに5人の子供たちをもたらしてくれました。わたしたちは結婚して30年以上になります。

22年ほど前のある日、わたしは8人の子供たちの将来に対して非常な不安を感じ始めました。彼らには自分と同じ危険な状況に身を置いてほしくあ

りませんでしたし、彼らが世の悪事にふけるようになってしまうのではないかと恐れられました。子供たちを助けるために何をすべきかは分かりませんでした。が、神に関する事柄については進んで受け入れるようになりました。宗教に関するメッセージを携えた人が戸をたたけば、いつでも戸を開き、そして心を開きました。注意深く耳を傾け、パンフレットを受け取り、一緒に彼らの礼拝場所に行きました。それでも心が安らぐことはありませんでした。自分が探しているものを見いだすことができなかつたのです。

数年がたち、わたしたちの家に一組の若い末日聖徒イエス・キリスト教会の宣教師がやって来ました。わたしは妻と5人の子供たち(ほかの3人は彼ら

しは喜びで涙を流しているのです。

イエス・キリストの福音とまことの教会のおかげで、わたしたちは子供たちを助け、喜びと幸福を得るための正しい方法を見いだすことができました。キリストはわたしたちの人生を導く光です。そして、主の教えは善を行うようにわたしたちに説き勧めてくれるのです。■

アダルベルト・S・サンチェスはフロリダ州ハイアリーアガーデンズステーク、マイアミレークス(スペイン語)ワードの会員です。

小さなこと

シャノン・バンダースプール・ワトソン

わたしは高校生のときに教会に入り、家族の中で唯一の教会員でした。教会の活動や召しの多くはわたしにとってなじみのないもので、なかなか教会での生活に適應できませんでした。ですから大学2年のときに初めて訪問教師になるように言われたときには、それがほんとうに意味することを理解するのに苦しみました。わたしの同僚はブレイ姉妹(仮名)

という忠実な若い母親で、約束を作るのも話し合いを進めるのも、姉妹たちの世話も、彼女に任せるのは容易なことでした。しかし、ある姉妹はほかの姉妹たちよりも難しいことが分かりました。キャシー(仮名)は教会に来ていない会員で、ボーイフレンドと同棲しており、最初の子を身ごもっていました。彼女はいつも悲しんでいるか、悩んでいるように見えました。

ある日曜日、わたしたちは支部長会からその晩の宣教師ファイヤサイドに家庭訪問で担当しているすべての人を必ず招待するように言われました。「問題ないわ」とわたしは思いました。「ブレイ姉妹がキャシーに電話してくれるでしょうから。」わたしは礼拝堂を見渡しましたが、その日曜日、ブレイ姉妹は町を離れていました。ですから、彼女が電話をかけてくれることは期待できません。

教会の集会を終えてアパートに着いたとき、わたしは御霊の促しを感じました。「キャシーに電話をかけなさい。」わたしは頑として拒否しました。たとえ電話をかけたとしても、間違いなく彼女は来ないでしょう。2度目に御

霊が強く促しました。「キャシーに電話をかけなさい。」やはりわたしは拒否しました。やがて御霊の促しが無視できないほど強くなり、わたしはしぶしぶ電話をかけました。しかし、留守番電話でした。「ほらね」と思いました。「こんなことをしても何にもならないって、分かっていたわ。」そう思いながらも、わたしはキャシーと彼女のボーイフレンドのウィル(仮名)に、その晩ファイヤサイドがあるのでぜひそこでお会いしましょうとメッセージを残しました。

ファイヤサイドには大勢の人々が出席していましたが、その中にキャシーとウィルはいませんでした。「来ないだろうと思ったわ。」わたしは幾分独善的にそう思いました。ところが、ファイヤサイドも残り10分となったとき、非常に驚いたことにキャシーとウィルが礼拝堂に入って来たのです。宣教師たちが静かに立ち上がり、彼らと一緒に出て行きました。「何てことかしら。」わたしはそう思いました。

その後すぐにクリスマス休暇になり、休日の間わたしは地元のワードに出席しました。1か月後に大学ワードに戻ると、一人の会員が興奮しながら近づいて来て、その晩のパプテスマ会に出席するかどうかを尋ねてきました。「もちろん」とわたしは言いました。「でもだれがパプテスマを受けるの。」するとその姉妹が答えました。「ウィルよ、キャシーのご主人の。」ご主人？わたしは大急ぎでキャシーを探しに行きました。

キャシーとウィルを見つけたわたしは、彼らに結婚とウィルのパプテスマに対してお祝いの言葉を述べ、一体どうなっているのか尋ねました。「あなたが招待してくれたファイヤサイドを覚えている？」とキャシーが答えました。「わたしたちは着くのが遅くなってしまったのだけれど、そうしたら長老たちが別の部屋へ連れて行って、ビデオを見せてくれたの。それがウィルにはと

やがて御霊は無視できないほどになり、わたしはしぶしぶ電話をかけました。しかし、留守番電話でした。



てもよかったみたいで、彼が宣教師から話を聞きたいと言ったの。そしてわたしたちは結婚して、今日ウィルはバプテスマを受けるのよ。」わたしは謙遜にさせられ、自分を恥ずかしく思いました。しかし同時に、天の御父が御自分の子供たち一人一人に抱いておられる愛を感じ、敬虔の念に満たされました。

しかし、物語はそれで終わりではありませんでした。つい先ごろ、6年振りに大学ワードに戻る機会がありました。わたしは胸の高鳴りを感じながら、何人もの顔なじみに会い、夫や二人の子供たちに旧友を紹介しました。

ロビーを通り抜けようとしたとき、ある人を見かけました。知っている人だとは思ったものの、何となく別人のように見えました。「お会いしたことがありますか」とわたしは言いました。「ええ、わたしはキャシーよ。あなたはわたしの訪問教師だったわ。ウィルを覚えているでしょう。」彼女は左側に立っている男性を指し、それから廊下にいた二人の子供たちを呼びました。「そしてこれが、うちの二人の子供よ。」彼女は幸福で安らかで、自信に満ちているように見えました。彼女は初等協会の会長会で働いていると話してくれました。「神殿にはもう行ったの」とわたしは質問しました。彼女はほほえみながら「どの？」と尋ねてきました。「シカゴ？ デトロイト？ ノーブー？ わたしたち、全部行ったことあるわよ。」

この思いがけない再会によって、わたしは「小さな、簡単なことによって大いなることが成し遂げられる」ことに再び気づかされたのです(アルマ37:6)。それが1回の電話のような小さなことであってもです。■

シャノン・バンダーズブル・ワトソンはイリノイ州バフファローグロブステーク、レックビル第2ワードの会員です。

スキナー兄弟とのホームティーチング

ケビン・プロバスコ

わたしは10代でバプテスマを受けて教会に入りましたが、その後間もなく出席しなくなってしまいました。軍隊での3年間も、わたしの霊の健康を回復してくれることはありませんでした。しかし除隊して間もなく、わたしは所属ワードに戻るようにという主の御霊の穏やかながらも執拗な促しを受け、それに忠実に従いました。

ぶっさらぼうなわたしでしたが、長老定員会の兄弟たちは、何を裁くこともなく歓迎してくれ、わたしを第二副監督であるバーニス・スキナー兄弟のホームティーチング同僚として働くよう割り当ててくれました。スキナー兄弟の愛にあふれた指導の下、わたしは自分の証が根を下ろし始めるのを感じました。

わたしたちの担当家族の中には、家計、子育て、慢性的な病氣、孤独、および教会員として活発に集うことに苦しんでいる人々がいました。福音に従うことにより得られる平安を身をもって示している人々もいました。中でも、ヘーゼル・ピーターソンとジョン・ピーターソンは特別でした。彼らの息子マイクは高校時代の友人で、わたしの改宗を最も助けてくれた若い男性の一人でした。若い求道者のころのわたしは、彼らの家で宣教師から福音を学んでいました。そして今、わたしは彼らのホームティーチャーとして戻って来たのです。

訪問先の一軒一軒で、スキナー兄弟は彼らに対して抱いている大いなる愛をもって、快活な態度で、辛抱強く教えました。彼の慰め、祝福、気遣い、そして勧告の言葉や身振りは、救い主の愛のレッスンとしてわたしの心に残っています。スキナー兄弟とのホーム

ティーチングは負担ではなく、最高の特権であり榮譽でした。

1年のうちにわたしは、神権の昇進を受け、愛する妻と神殿で結び固められ、引越しによってスキナー兄弟と、わたしたちがホームティーチングで担当した家族から離れてしまいました。大学と法科大学院を終えた後、わたしは20年間を軍隊で過ごし、家族とともに3大陸4か国を移り住みました。それでも決してスキナー兄弟のことを忘れたことはなく、様々なワードや支部で働きながら、彼の思いやりと献身に倣おうと努力しました。

空軍を退いた後、わたしは弁護士を開業するために故郷に戻りました。20年の間にワードはまったく異なった境界線に沿って再組織されていましたが、わたしは、夫を痛で亡くしてから独りで住んでいたヘーゼル・ピーターソン姉妹を訪問するべきだと感じました。

にもかかわらず6か月たった後も、わたしは依然として彼女を訪問していませんでした。ある冬の朝、車を運転して仕事に向かっていたとき、ピーターソン姉妹の姿がふと心に浮かんできました。彼女の家にもっと近い高速道路の出口を通り過ぎながら、わたしはその気持ちを無視して運転を続けました。しかし次の出口に着くと、わたしは高速道路を降りてピーターソン姉妹の家に向かって引き返しました。ほぼ25年前教会に戻るよう穏やかにわたしを促してくれたのと同じように、御霊が今度は昔ホームティーチングの担当先だった姉妹を訪問すべきだと穏やかにささやくのです。

わたしはピーターソン姉妹の玄関をノックして待ちました。数分後、わたしは不安になり、出かけているのだろう

かと思いました。もう一度ノックをし、さらに数分がたちました。ついに戸の上の窓がガタガタと鳴って開き、ピーターソン姉妹が上からわたしの方をのぞきました。長い歳月によって彼女の髪はこの上なく清らかな羊毛のように白くなっていました。彼女は非常に小さく、やつれて見えました。その顔は痛みでゆがんでいました。苦しい呼吸にもかかわらず、彼女はわたしであることに気づくと泣き始めました。「ああ、ケビン」と彼女は言いました。「来てくれてほんとうにうれしいわ。関節炎がひどく痛んで、神権の祝福が必要なわ。待っていてくれてありがとう。……どうぞ、入って。」そして窓から目を離す前に、彼女はこう付け加えました。「バーニスだと思ったわ。」

わたしはバーニスという名前を聞いて驚きました。「スキナー兄弟のことですか。」わたしは彼女に尋ねました。「彼は今でもこの辺りに住んでいるのですか。」

「いいえ」と彼女は言いました。「ここから40マイル〔約65キロ〕北に住んでいるわ。でも今でもこの近くで働いていて、わたしは彼の職場の電話番号を知っているの。20分ほど前に電話をして、祝福をしに来てくれるように頼んだのよ。もう来るはずだわ。」

1台の車が家の前に停車して、スキナー兄弟が降りて来ました。髪はずっと白くなっていましたが、以前と同じ快活で元気な足取りで、以前と同じほ

ほえみを浮かべていました。握手を交わすと、20年の歳月は一瞬にして消え去りました。わたしたちは通い慣れたピーターソン姉妹の家に入りました。そこはわたしが何年も昔に霊的な事柄についてスキナー兄弟から模範をして学んでいた場所でした。わたしはピーターソン姉妹の頭に聖別された油を注ぎ、スキナー兄弟が祝福を宣言しました。わたしたちは主御自身から臨時に奉仕する召しを頂き、再び同僚となったのです。■

ケビン・プロバスコはユタ州シラキウス西ステーク、グレンイーグルワードの会員です。

スキナー兄弟と
わたしが握手
を交わすと、
20年の歳月は
一瞬にして
消え去りました。
わたしたちは
主御自身から臨時に
奉仕する召しを頂き、
再び同僚となった
のです。



執事 定員会

神権定員会とその目的に関するシリーズの第1回。
今回は、管理監督会が執事定員会に関する見解を紹介しています。

なぜ教会は、12歳と13歳の若い男性を執事定員会として組織するのですか。

管理監督 H・デビッド・バートン(上中央)——非常に大切な理由の一つは、神権の鍵^{かぎ}を効果的に使うということです。神権の鍵は、人々の生活を祝福し、指導者として管理する者に権威を与えます。定員会の会長は、この鍵を用いて、定員会の会員たちと、彼らの奉仕を受け入れる人々を祝福します。

管理監督会第一副監督 リチャード・C・エッジリー(上左)——2003年6月の世界指導者訓練集会において、十二使徒定員会のL・トム・ペリー長老は、定員会には3つの働きがあると話しました。つまり定員会は、教育の場であり、兄弟愛で結ばれた、奉仕の組織であるということです（「ステーキの管理運営」6参照。ステイブ・L・リチャーズ、Conference Report, 1938年10月, 118も参照）。定員会は、



この3つの目的を果たすために若い男性が集まる場所です。わたしには、定員会の指導の重点が教室内でのレッスンに最も置かれ、兄弟愛と奉仕という面にはあまり注意が払われていないように思われますが、これらの面も大切です。

バートン監督——教室内でのレッスンも大変重要ですが、そこは「理論」を学ぶ場所です。理論を応用する「実験室」とは、教室の外で人々に奉仕する機会です。最も大切なことは、若い男性が自分の義務をどのように遂行していくかということです（教義と聖約20：57, 59, 60参照）。

執事定員会アドバイザーはどのような役目を果たすべきでしょうか。

管理監督会第二副監督 キース・B・マクマリン(上右)——定員会における兄弟愛と奉仕という面を広げる一つの方法は、定員会の会長を本来の立場に置くことです。わたしたちは執事定員会のアドバイザーに、会長以上の権限を与えがちです。

バートン監督——アドバイザーは「陰の力」となる能力を培う必要があります。自分が事実上会長のような存在になるのではなく、若い男性たちがその任務を全うできるよう手助けをしなければなりません。定員会が、アドバイザーを中心に動いていることがあまりにも見受けられます。

マクマリン副監督——わたしには、執事定員会がアドバイザーに期待されたことのみを行っている場合が多いように見受けられます。アドバイザーが、若い男性をその神権の職において引き上げ、祝福するという意味をよく理解するならば、さらに大いなる力が現れるで





しょう。しかし、わたしたちが執事たちを「彼らはまだ若いので、神権に付随するある種の活動を通して楽しませる必要がある」と考えているかぎり、彼らはその状態にとどまることになるでしょう。

エッジリー副監督——執事定員会の部屋に、毎週出席する会員だけのためにでなく、定員会の全員のためにいすが用意されていると考えてみてください。そしてそれぞれのいすに一人一人の名前が付けてあったらどうでしょうか。会長会には空いているいすが実ははっきりと見えることでしょうか。これは会長会と定員会の会員に、ほかの人々に手を差し伸べなければならないと感じさせるためにできることの一例です。

執事の役割の多くが決まり切った作業に見える可能性がある中、成人指導者やアドバイザーは、執事たちが霊的な経験ができるように、どのように助けることができるでしょうか。

エッジリー副監督——若い人は、年齢相応の霊的経験が得られるように導かれる必要があります。そのような経験は自然に得られるものではありません。わたしは父に連れられて出て行き、あまり熱心でない教会員に父が祝福を与えるのを見たことを覚えています。わたしは儀式に加わることはできず、ただその場において御霊を感じていただけでしたが、父がその儀式について説明してくれたので、わたしは霊的な経験へと導かれました。

マクマリン副監督——聖餐のパスは、霊的に啓発されるならば、決まり切った作業とは懸け離れたものとなります。執事がパンと水の象徴について霊を鼓舞する方法で教わり、自分を含め、その象徴を口にすすべての人にそれがどのような意味を持つのかを理解するならば、聖餐は毎週安息日の神聖な経験となります（3ニーファイ18：5-6；教義と聖約20：77，79参照）。しかしわたしが見るところ、ほとんどの場合アロン神権者たちは、どの列に聖餐をパスすればよいのか、または壇上のだれに最初に持つていくべきかということに気を取られがちです。このような状態にあると、聖餐はその特別な性質を失い、決まり切った作業になってしまいます。アドバイザーがそのような管理に関する細かい点を事前によく教えておけば、そのようなことに気を取られることはなくなるでしょう。

定員会は、教育の場であり、兄弟愛で結ばれた、奉仕の組織です。定員会は、この3つの目的を果たすために若い男性が集まる場所です。

執事が今日直面する最も大きな課題は何でしょうか。また、定員会はそれに対しどのような援助ができるでしょうか。

エッジリー副監督——執事に対する最も大きな課題は、自分も仲間の一人であると感じること、自分を見いだすこと、そして自分は大切な存在であると感じることです。若い男性の中には執事の年代のころから教会にあまり熱心ではなくなる人がいます。彼らは自分を受け入れてくれると感じるところへ足を向けます。例えば、麻薬の世界について考えれば、そこでは常に人を受け入れています。彼らは正しい環境と友達の中で受け入れられていると感じる必要があります。それが定員会でなくてはなりません。自分も仲間の一人であり、仲間といると安心でき、仲間から大切な存在と思われているんだと感じる必要があります。それが定員会の兄弟愛というものです。

パートン監督——わたしたちは、アロン神権が実際的な意味で準備の神権であるということを、心に深く刻んでおく必要があります。そこが終着点となってしまうことがあまりにも多くあります。アドバイザーや監督たちが、この神権が人生の、またメルキゼデク神権の準備であるとよく理解しているならば、恐らくわたしたちは若い男性がより高い神権の救いの儀式に備えられるよう、照準を合わせるべきでしょう。■



執事となる



ローリー・リブジー

ジョージ・ボンドは、アロン神権を受けるのが待ち遠しくて、12歳の誕生日を指折り数えていました。「執事になって聖餐のパスをするのをほんとうに楽しみにしていました」とジョージは言います。

ついに心待ちにしていた日曜日になりました。ジョージは早起きして9時からの聖餐会に間に合うよう、準備を整えました。ジョージの所属するワードはフロリダ州ジャクソンビル東ステーク、アーリントンワードです。

「ジョージは8時には支度を済ませていました。白いワイシャツを着てネクタイを締め、家族のだれよりも早く教会に行く準備を整えました。」父親のビルは回想します。

「その日の聖餐会で、初めて聖餐を配るジョージを見てまぶたが熱くなりました。ジョージが家族の一員となり、今また、こうして神権者となったことを思うと、実にすばらしいことです。」ロシア人のジョージは、2002年4月29日に、ボンド家の養子となりました。

父親のボンド兄弟は、成人して1991年に改宗したので、自分にはできなかった若い男性の経験をする息子を、じっと見守っています。「わたしも若いころから教会の中で成長できればよかったのですが」とボンド兄弟は語ります。「ジョージが今アロン神権者として学んでいる知識を、わたしも若いときに身に付けていたかっ

た。何度そう思ったかしれません。」

「夫のビルは、教会へ行くときの服装などについて、ジョージがよく分かるように助けてました」とジョージの母親であるフランは語ります。「わたしたちのところにきて以来、ジョージはいつも父親の模範に従おうとしていました。ジョージは父親のようになりたいと強く願っています。」

ワードの執事定員会で第一副会長を務めるジョージは、福



音を学び神権を尊ぶという両面で成長を続けています。彼は率先して断食献金の意味や、献金の使い道を詳しく調べました。「断食献金について本で読みました」と彼は言います。「そのおかげで教員がなぜ献金を納めるのか、そして何がなぜ断食献金を毎月集めるのか分かりました。」

「ジョージは今、新しいことを学んでいるところですが、なすべきことに対してこれほど細心の注意を払っていることに感動を覚えます」とボンド兄弟は付け加えます。「こんなにすばらしい息子を持って、わたしたちはとても幸せです。」■

ローリー・リブジーはフロリダ州ジャクソンビル東ステーク、マンダリン第1ワードの会員です。



2005年ミューチャルのテーマ 「大いなる驚くべき業」

(1ニーファイ14:7)

中央若い男性会長会と中央若い女性会長会が
2005年のミューチャルのテーマについて話します。

18 20年の春、14歳の少年の心からの祈りにより「大いなる驚くべき業」の扉が開かれました(1ニーファイ14:7)。預言者ジョセフ・スミスを通して福音が回復されたのです。この回復によって、およそ2,000年にわたり地上から失われていたすべての祝福が受けられるようになりました。モルモン書を手にしているのも、生ける預言者の導きという特権を得ているのも、この回復のおかげです。神権の力は今再び地上にあります。聖なる神殿で家族を永遠に一つに結ぶための儀式が執行できるのは、この神権があるからです。

主は青少年を愛し、信頼しておられます。皆さんは、完全な主の福音が回復されたこの時代に生を受けるといふ機会に恵まれました。皆さん一人一人は、この大いなる驚くべき業^{あかし}についての証を得ることができますし、証を得るべきです。ゴードン・B・シンクレー大管長は言いました。「生ける神の實在、その愛する御子の神性、この時代における御二方の業の回復、そしてその後の栄光に満ちた数々の現れに対して、心の内からわき起こる静かな確信こそが、わたしたち一人一人の信仰の基となっています。これがわたしたちの証となっているのです。」(「証」『聖徒の道』1998年7月号、75) 救い主の模範^{なら}に倣って無私の奉仕をし、義にかなった選択をするとき、皆さんの証は強められ、本分を尽くせるように祝福され、世の影響から守られます。結果

として、皆さんは帰属感を感じ、大きな喜びを得るでしょう。多くの面でこの業に携われるのは何と^{ほんに}いう祝福でしょう。

救い主が今日、御自身の預言者と教会の指導者を通じてこの業を導いておられることを証します。主が皆さんを愛し、信頼し、生涯を通じて皆さんを導くために救いと幸福の計画を明らかにしておられることを証します。さらに、わたしたちは皆さんを愛し、信頼し、皆さん一人一人とともに、この大いなる驚くべき業に携われることを祝福に感じています。■

中央若い男性会長会



チャールズ・W・
ダールクウィスト2世(中央)
ディーン・R・バージェス(左)
マイケル・A・ナイダー(右)

中央若い女性会長会



スーザン・W・タナー(中央)
ジュリー・B・ベック(左)
イレイン・S・ダルトン(右)



わたしが？ 祝福を授けるんですか？

「何を言えばいいんだろう。」
わたしは不安になりました。

ブラッド・ラーセン

「もし彼女が君に祝福を授けてほしいと言ったら、してくれる？」電話の向こうでジェーコブが尋ねました。ジェーコブはわたしのホームティーチングの同僚で、担当家族の一人が祝福を受けたがっていると説明しました。

「祝福の中で、何を言えばいいんだろう。」わたしは不安になりました。わたしはまだ18歳、長老になりたてで、大学に入学するために引っ越して来たばかりでした。今までメルキゼデク神権を受けられるようにずっと備えてきましたが、実際に行使する日のことなど考えたこともありませんでした。

なかなか決心がつかず、緊張してぐっとつばを飲み込みました。しかし、やがて、気の進まないまま「いいよ」と答えていました。自分が口にした言葉の意味が分かった途端に口ごもってしまい、ほとんど聞き取れない声になりました。言うつもりのない言葉が、なぜか口から出て来てしまったのです。

「すごい！」興奮した声が聞こえました。「すぐそっちに行くから。」

半地下になったアパートで電話のそばに立っていたわたしは、ジェーコブに電話をかけ直して、できないと言おうかと考えました。そのとき、父のことを思い出したのです。父はいつも祝福を授けるときには、まず黙って別の部屋に行き、祈っていました。いつも「ちょっと待っていて」と言って、だれにも気づかれないように祈りに行っていたものです。わたしは気づいていましたが。

アパートで独りきり、ソファの横でひざまずきました。そし

て、頭を下げて、祈りました。「天のお父様、もう少ししたらわたしは祝福を施すかもしれません。ですが、わたしにはその経験がありません。もしわたしが施すことがあなたの御心^{みこころ}であるなら、わたし自身の思いにじゃまされずに、御霊^{みたま}によって何を言うべきか分かるように助けてください。」

立ち上がると、自分のふさわしさに対して、また、必要なときに何を言うべきか御霊が教えてくれるということについて、平安を得ました。何を言うべきか分かりませんでした。それは別に気にすることではないと思いました。

数分後、スーツで身を包んだジェーコブとわたしは、ホームティーチング先の若い姉妹の家のいすに座っていました。少しの間、姉妹の生活の様子について3人で話しました。姉妹は困難な状況にあり、神権の祝福によって助けられることを望んでいたのです。


「だれに祝福を施してほしいですか。」ジェーコブが尋ねました。

姉妹はわたしの方を向いて言いました。「あなたに祝福していただきたいのですが。」

「はい」と今回は口ごもることなく返事をしました。

台所のテーブルにあった金属製の白いいすを、部屋の中央に移動させました。姉妹の頭に手を置いて、心の中で、言うべきことが分かるようにと再び祈りました。ジェーコブがわたしの手の上に手を置くと、わたしは口を開きました。「聖なるメルキゼデク神権の権能により、わたしたちはあなたの頭の上に手を置き、あなたに祝福を授けます。……」

この言葉を言い終えるとすぐに、次に言うべきことが分かりました。姉妹は先ほど自分の困難な状況を話してくれましたが、頭に浮かんできた言葉の中にはその問題に関するものもあれば、姉妹が口にしていなかったものもありました。そ



電話のそばに立っていたわたしは、
ジェーコブに電話をかけ直して、
できないと言おうかと考えました。
今までメルキゼデク神権を
受けられるようにずっと備えてきましたが、
実際に行使する日のことなど
考えたこともありませんでした。

それはあらかじめ次に何を言うのか考えていたような感じではありませんでした。その瞬間に言葉が頭に浮かんできたのです。父や同僚が祝福をする場に何度も立ち会ってきましたが、わたしがそのときに述べた言葉はそれまでに聞いたことのないものでした。御霊が何を言うべきか教えてくれていると感じることができました。

祝福を終えると、姉妹は目に涙を浮かべて感謝してくれました。わたしは自分も涙ぐんでいるのに気づき、心の中で天の御父に感謝しました。御父はふさわしい神権者に実際に靈感を与えてくださいます。メルキゼデク神権を授かって、行使するふさわしさを身に付けられるように備えてきたので、わたしはこの真理を理解することができました。■

ブラッド・ラーセンはメキシコ・トゥストラグティエレス伝道部の専任宣教師です。



子供たちの幸せに役立つ

わたしは『リアホナ』、特に「フレンド」を読むのが大好きです。「フレンド」には良い話が載っていて、子供たちが幸せになるのに役立つと思います。

ブラジル・ジョアンペンソアステーク

タンバウワード

サラ・フェルナンデス・アラウヨ・デ・ソーザ
10歳

家庭訪問を通じて得るより強い信仰

天の御父から常に啓示を受けている、生ける預言者に感謝します。預言者や中央幹部からの導きを受けられるので、『リアホナ』にとっても感謝しています。『リアホナ』は福音の知識を得るのに役立ちます。

毎月の「家庭訪問メッセージ」に感謝します。メッセージを伝え、訪問先の姉妹の考えを聞くときに、姉妹たちの証あかしによってわたしの信仰は増し加えられます。このような靈感を受けたメッセージで、すべての姉妹たちの信仰は強められるのです。

ホンゴン クーロン

香港九龍東ステーク

クワンタン

觀塘ワード

ウオンキョン チューフオン

黃菱 志芳

生活における鏡

わたしはホームティーチャーとして分かち合う大管長会のメッセージに感謝しています。毎月のメッセージは神の靈感を受けて書かれたものであることを知っています。わたしたちはこのメッセージから学び、それを生活における鏡として利用することができます。メッセージの中に映し出される自分自身の姿を見いだせます。また、学び、応用することのできる積極的な事柄を見つけることができます。

エクアドル・グアヤキル・

ガルシアモレノステーク

カリクチマワード

ポール・ケサダ・リバス

主の時

計画することは非常に重要です。わたしは、自分の計画を変えたくない性質です。しかし、『リアホナ』2003年10月号、ダリン・H・オークス長老の「時」という記事を読んで、自分のカレンダーの横には、それよりも大事な主のカレンダーがあることが分かりました。『リアホナ』を定期購読していればさらに主の計画や御心みこころを学ぶ機会を持てるでしょう。

コンゴ共和国キンシャサ伝道部

カナンガ第1支部

フランソイス・ニンドウ・ニンドウ



指導原則に関する 経験をお寄せ ください

正しい指導原則は物語や経験を通して最もよく学ぶことができます。あなたは指導者として、自分が仕える人々の生活を祝福するために特別な努力をしたことがありますか。

あなたの生活は、靈感を受けた指導者によって祝福されてきましたか？

『リアホナ』の読者にあなたの経験を紹介してください。

電子メール——

cur-liahona-imag@ldschurch.org

あて先——

Leadership Experiences, *Liahona*,

50 East North Temple Street,

Floor 24, Salt Lake City,

UT 84150-3220, USA

住所、氏名、電話番号、

電子メールアドレス、

所属ステーク／

ワード(地方部／支部)を

明記してください。





「**こ**の業はすばらしい現れから
始まりました。
1820年のある春の朝、

御父と御子が少年ジョセフ・スミスに
御姿を現されたのです。

現代の教会に見られる良いものは、
すべてこの驚嘆すべき訪れの結んだ実です。

この示現についての証は、世界中の
数百万という人の心を動かしてきました。」

ゴードン・B・ヒンクレー大管長

「確かな道を歩みなさい」2ページ参照

